

外形ニ現ハレタル以上ハ二等ヲ減シテ罰スルニ至リ徒
ラニ刑ノ權衡ヲ傷リ立法ノ精神ニ悖戾スルヲ表明スル
ニ足ランノミ

〔三〕○第二項 本項ハ偽造變造罪ノ豫備ノ所爲ヲ罰スヘキ
旨ヲ定ム

貨幣ヲ偽造スルニハ必ス先ツ器械ヲ備フ其器械一旦整
頓スルトキハ幾多ノ巨額ト雖モ之ヲ造出スル敢テ難カ
ラス故ニ既ニ器械ヲ豫備シタル者ハ未タ偽造ニ着手セ
ズト雖モ仍ホ之ヲ罰シテ以テ世安ヲ維持セサルヘカラ
ズ然レトモ此所爲タル一ノ豫備ニ過キサレハ各本刑ヨ
リ三等ヲ減スヘシト定メタリ

第百八十七條

貨幣ヲ偽造變造スルノ情ヲ知テ雇ヲ受ケタル職工ハ
前數條ニ記載シタル犯人ノ受ク可キ刑ニ照シ各一等
ヲ減ス〔刑一〇四、一〇九、
一五八〕

若シ職工ノ補助ヲ爲シテ雜役ニ供シタル者ハ職工ノ
刑ニ照シ一等又ハ二等ヲ減ス同上

- 一 本條ノ主旨
- 二 第一項ノ解
- 三 第二項ノ解

〔一〕○本條ハ偽造變造ノ職工及ヒ其雜役ニ供シタル者ノ罪
ヲ定ム

〔二〕○第一項 本項ハ偽造變造ノ職工ニ關スル特例ヲ定ム
貨幣ヲ偽造シ又ハ變造スルノ情ヲ知テ雇ヲ受ケタル職

工ハ一ノ正犯ナレハ總則ニ照ストキハ偽造者變造者ト
 同一ノ刑ニ處セサルヘカラス然レトモ雇ヲ受ケタル職
 工ハ固ト給料ノ爲メ正犯ノ使令ニ從ヒ工事ニ役セラル
 、者ナレハ其情大ニ輕シ且職工ハ特立シテ自ラ貨幣ヲ
 偽造シ又ハ變造スル者ニ非サレハ之ヲ正犯ト同ク罰ス
 ルノ要ナシ故ニ犯人ノ受クヘキ刑ニ照シ各一等ヲ減ス
 ヘシト定メタリ然レトモ正犯ノ雇ヲ受ケタルニ非ス同
 謀シテ貨幣ヲ偽造若クハ變造シタル職工ハ本條ノ限ニ
 在ラサルナリ

〔三三〇〕第二項 本項ハ職工ノ補助ヲ爲シテ雜役ニ供シタル
 者ニ關スル特例ヲ定ム

雜役ニ供シタル者ハ其執ル所ノ事業職工ノ如ク緊要ナ

ラス故ニ其刑亦職工ノ刑ヨリ輕カラサルヲ得ス是レ其
 正犯タルト從犯タルトヲ問ハス其情ノ輕重ニ因リ職工
 ノ刑ニ照シ一等又ハ二等ヲ減スヘシト定メタル所以ナ
 リ

第百八十八條

貨幣ヲ偽造變造スルノ情ヲ知テ房屋ヲ給與シタル者

ハ偽造變造ノ各本刑ニ照シ二等ヲ減ス〔刑〕二四〇九、一ニ

○本條ハ房屋給與者ノ罪ヲ定ム

貨幣ヲ偽造變造スルノ情ヲ知テ房屋ヲ給與シタル者ハ
 大ニ偽造變造ノ罪ヲ幫助スルモノナリ故ニ本刑ニ照シ
 二等ヲ減シテ之ヲ罰スヘシト定メタリ
 或問テ曰ク偽造變造ノ各本刑ニ照シ二等ヲ減スルトハ

偽造變造既ニ成テ未ダ行使セサル者其未ダ成ラサル者及ヒ未ダ着手セサル者ノ刑ニ照シ二等ヲ減スルニ止マルモノナル乎將タ正犯之ヲ行使シタルトキハ行使シタル者ノ刑ニ照シテ減スヘキ乎ト曰ク房屋給與ハ貨幣ヲ偽造若クハ變造スルヲ幫助スルモノニシテ其行使ヲ幫助スルモノニ非ス故ニ正犯貨幣ヲ偽造變造シテ行使シタルト雖モ房屋給與ト行使トハ其間全ク關係ナキカ故ニ行使者ノ刑ニ照シテ減輕ヲ爲スコトヲ得サルカ如シ然レトモ偽造若クハ變造ト行使トチ合シテ一罪ト爲シタル以上ハ行使者ノ刑ヨリ二等ヲ減セサルヘカラサルナリ

第百八十九條

偽造變造ノ貨幣ヲ内國ニ輸入シタル者ハ偽造變造ノ刑ニ同シ〔刑〕一五七、

一 本條ノ解○前數條ニ定メタル要件ハ本條ニモ亦之ヲ適用セサルヘカラス○輸入シタルノミチ以テ偽造變造シテ行使シタル者ト同一ノ刑ニ處スヘキ乎

二 第百八十六條及ヒ第百八十七條ノ區別ハ本條ニモ亦之ヲ準用スヘキ乎

〔一〕○本條ハ偽造變造ノ貨幣ヲ内國ニ輸入シタル者ノ罪ヲ定ム

貨幣ヲ偽造變造シタル者ヲ罰スルハ其害ニ之ヲ偽造變造シタルカ故ニ非ス其内國ニ偽造變造ノ貨幣ヲ現出セ

シメ一般ノ信用ヲ害スルカ故ナリ今貨幣ヲ偽造若クハ
 變造シタル者ト之ヲ輸入シタル者トハ其所爲異ナリト
 雖モ其結果即チ公益ヲ害スルノ點ニ至テハ一ナリ何ト
 ナレハ偽造變造ノ貨幣ヲ輸入シタル者ハ内國ニ之ヲ現
 出セシメタルモノナレハナリ故ニ本條ニ於テ輸入者ヲ
 罰スルニ偽造者變造者ト同一ノ刑ヲ以テスヘシト定メ
 タリ

○本條ニハ唯偽造變造ノ貨幣ヲ輸入シタル者トノミ
 リテ其通用貨幣ト否ト又内國貨幣ナルト外國貨幣ナル
 トヲ定メス然レトモ前數條ニ定メタル所ノ要件ハ本條
 ニモ亦之ヲ適用セサルヘカラサルナリ

○或問テ曰ク本條ニハ單ニ輸入シタル者トアリ是レ偽
 造變造ノ貨幣ヲ輸入シタル者ハ未ダ之ヲ行使セスト雖
 モ猶ホ之ヲ偽造變造シテ行使シタル者ト同一ノ刑ニ處
 スルノ意ナル乎ト曰ク否ナ本條ニハ單ニ輸入シタル者
 トアルモ偽造變造ノ刑ニ同シトアル以上ハ之ヲ行使ス
 ルニ非サレハ第百八十二條第百八十五條ニ照シテ罰ス
 ルヲ得ス若シ夫レ之ヲ行使セサル者ハ第百八十六條ニ
 依リ處斷スヘキナリ

(二)○或問テ曰ク偽造變造ノ貨幣ヲ輸入センカ爲メ外國ヲ
 輸出シ將ニ輸入セントシテ未ダ遂ケサル者ハ偽造變造
 ニ着手シ未ダ成ラサル者ニ準シ又正犯ノ使令ヲ受ケ運
 輸其他ノ事ヲ爲シタル者ハ偽造變造ノ職工及ヒ雜役者
 ニ準シ處斷スヘキ乎ト曰ク此點ハ宜ク區別ヲ設ケテ論

セサルヘカラス第一輸入ノ所爲重罪タル場合ニ於テハ
 輸入セントシテ未ダ遂ケサル者ハ總則未遂犯罪ノ例ニ
 照シテ之ヲ罰スルヲ得ヘシ然ルニ通常未遂犯罪ハ一等
 又ハ二等ヲ減スルモノナレハ將ニ輸入セントシテ未ダ
 遂ケサル者ヲ罰スルニ本刑ヨリ一等ヲ減シタルノ刑ヲ
 以テスルヲ得ルカ故ニ偽造變造ニ着手シ未ダ成ラサル
 者ノ刑ニ比照シテ稍苛酷ニ失スルモノナリ故ニ道理上
 偽造變造未ダ成ラサル者ニ準シテ本刑ヨリ二等ヲ減ス
 ヘキナリ然レトモ其輸入ノ所爲輕罪タルトキハ通常其
 未遂犯ヲ罰セサルモノナレハ之ヲ偽造變造未ダ成ラサ
 ル者ニ準スルハ第二條ノ正文ニ戻ルノ恐レアリ又正犯
 ノ使令ヲ受ケ運輸其他ノ事ヲ爲シタル者ハ總則ニ照ス

コ一ノ正犯ナレトモ之ヲ正犯ト爲シ輸入者ト同一ノ刑
 ニ處スルハ彼ノ偽造變造ノ職工雜役者ノ刑ニ照シテ頗
 ル苛酷ヲ覺ユ故ニ情ヲ知テ正犯ノ雇ヲ受ケタル運輸者
 ハ職工ニ準シ又運輸者ノ補助ヲ爲シ雜役ニ供シタル者
 ハ職工ノ補助ヲ爲シ雜役ニ供シタル者ニ準シ之ヲ處斷
 スヘキナリ然リ而シテ刑法ハ犯人ノ爲メ利不利ヲ問ハ
 ス其文最モ明了ナルヲ要シ且輸入ノ所爲輕罪タルトキ
 ト雖モ其輸入セントシテ未ダ遂ケサル者ヲ罰セサルノ
 理ナキカ故ニ余ハ右四箇ノ場合ヲ確定セラレンコトヲ
 希望ス

第百九十條

偽造變造ノ情ヲ知テ其貨幣ヲ取受シ之ヲ行使シタル

者ハ偽造變造シテ行使シタル者ノ刑ニ照シ各二等ヲ減ス^{刑一三二}

其未タ行使セサル者ハ各三等ヲ減ス同上

一 本條ノ主旨

二 第一項ノ解

三 第二項ノ解 ○偽造變造ノ情ヲ知テ貨幣ヲ取受スルノ事ニ着手シ未タ之ヲ遂ケサル者ハ如何○偽造變造ノ情ヲ知テ貨幣ヲ取受シタリト雖モ固ヨリ之ヲ行使スルノ意ナキヲ以テ之ヲ行使セサル者ハ如何

〔一〕〇本條ハ偽造變造ノ情ヲ知テ貨幣ヲ取受シ之ヲ行使シタル者及ヒ其未タ行使セサル者ノ罪ヲ定ム

〔二〕〇第一項 本項ハ情ヲ知テ偽造變造ノ貨幣ヲ取受シ之ヲ行使シタル者ノ罪ヲ定ム
偽造變造ノ情ヲ知テ貨幣ヲ取受シ之ヲ行使シタル者ハ其性質宛モ夫ノ事後ノ從犯トモ稱スヘキモノニ似タリ然ルニ事後ノ從犯ハ余嘗テ之ヲ詳論セシ如ク斷シテ道理上見ルヘカラサルモノナルカ故ニ之ヲ從犯トシテ罰スルヲ得ス然ラハ則チ之ヲ免サンカ此者タル利慾心ニ基キ偽造變造ノ貨幣ヲ行使スルヲ助成シタルモノナレハ其情疾ムヘク其害亦大ナリ決テ不問ニ付スヘキモノニ非ス故ニ本項特ニ偽造變造シテ行使シタル者ノ刑ニ照シ各二等ヲ減シテ之ヲ罰スヘシト定メタリ
或曰ク自ラ貨幣ヲ偽造變造シテ行使シタル者モ情ヲ知

テ偽造變造ノ貨幣ヲ取受シ之ヲ行使シタル者モ其社會
 ヲ害スルノ點ニ至テハ則チ一ナリ然ルニ彼此刑ニ輕重
 ノ差アルハ果テ如何ナル理由ニ基クモノナル乎ト曰ク
 偽造變造者ハ本ナリ行使者ハ末ナリ本根ヲ抹殺セハ枝
 葉曷ソ其勢ヲ逞フスルヲ得ン偽造變造者ヲ嚴罰シテ跡
 チ社會ニ見ルナキニ至ラハ行使ヲ爲サント欲スル者ア
 ルモ豈得ヘケンヤ之ニ反シテ行使者ヲ嚴罰シテ其跡ヲ
 漸滅スルニ至ルモ決テ偽造變造ヲ爲ス者ヲ制スルニ足
 ラサルナリ故ニ偽造變造者ハ之ヲ嚴罰スルコト社會命
 令權ヲ施行スルニ頗ル必要ナリト雖モ偽造變造ノ貨幣
 ヲ取受シテ之ヲ行使シタル者ハ之ヲ嚴罰スルヲ必要ト
 セス是レ彼此ノ間ニ其刑ノ差異アル所以ナリ

〔三三〕〇 第二項

本項ハ偽造變造ノ情ヲ知テ貨幣ヲ取受シ未
 タ行使セサル者ノ罪ヲ定ム

偽造變造ノ貨幣ヲ取受シテ未タ行使セサル者ト既ニ行
 使シタル者トノ關係ハ恰モ貨幣ヲ偽造變造シ既ニ成テ
 未タ行使セサル者ト既ニ行使シタル者トノ關係ニ於ケ
 ルカコトシ彼ノ偽造變造既ニ成テ未タ行使セサル者ハ
 本刑ニ一等ヲ減ス故ニ此ノ偽造變造ノ貨幣ヲ取受シテ
 未タ行使セサル者モ亦前項ノ刑ニ照シ一等ヲ減シテ之
 チ罰スヘシト定メタルハ能ク其當ヲ得タルモノナリ
 ○或問テ曰ク若シ偽造變造ノ情ヲ知テ貨幣ヲ取受スル
 ノ事ニ着手シ犯人意外ノ障礙若クハ舛錯ニ因リ之ヲ遂
 ケサル者ハ如何處分スヘキ乎ト曰ク本項ニハ未タ行使

セサル者トアリテ未ダ取受セサル者ノ語ナシ故ニ通常未遂犯罪ノ例ニ照シ重罪ニ係ルトキハ一等又ハ二等ヲ減シテ之ヲ罰シ輕罪ニ係ルトキハ全ク之ヲ不問ニ付スルノ外アラサルヘシ然レトモ此ノ如キハ能ク其當ヲ得タルモノトイフヲ得ス左ニ其所以ヲ辨セン抑本條ノ罪ハ偽造變造ノ貨幣ヲ取受シ之ヲ行使シタルニ因テ成ルモノニシテ單ニ取受ノミニ因テ成ルモノニ非ス即チ本項ハ未遂犯罪ノ特例ヲ定メタルモノニシテ特別ノ罪ヲ定メタルモノニ非ス是レ本項ニ其未ダ行使セサル者トアリテ單ニ偽造變造ノ貨幣ヲ取受シタル者トナキニ因テ明カナリ夫レ然リ故ニ情ヲ知テ偽造ノ金銀貨ヲ取受セントシ既ニ其事ヲ行フト雖モ未ダ遂ケサル者ハ本條第一項ノ刑ヨリ一等又ハ二等ヲ減シテ之ヲ罰セサルヘカラス今裁判官ニ於テ取受セントシテ未ダ遂ケサル者ヲ罰スルニ一等ヲ減シタルノ刑ヲ以テスヘシト爲ストキハ既ニ取受シテ未ダ行使セサル者ノ刑ト未ダ取受セサル者ノ刑ト輕重ナキノミナラス亦偽造變造ニ付テハ輕罪未遂犯ヲ盡ク罰スルモ偽造貨幣ヲ取受シ之ヲ行使シタル罪ニ付テハ輕罪未遂犯ノ一分ヲ罰シ他ノ一分ヲ罰セサルノ不權衡ヲ生スヘシ故ニ本項ハ宜ク之ヲ改メテ第八十六條ト同ク既ニ取受シテ未ダ行使セサル者ハ前項ノ刑ニ照シ一等ヲ減シ未ダ取受セサル者ハ二等ヲ減スト定メラレシコトヲ切望ス

余カ故ラニ前項ノ刑ニ照シ一等若クハ二等ヲ減スヘシ

ト論シテ敢テ偽造變造ノ刑ニ照シ三等若クハ四等ヲ減スヘシト云ハサルモノハ是レ本條ノ罪ハ獨立シテ成立スルモノニシテ偽造變造ノ從犯ニ非サルト本條第二項ハ第一項ニ定メタル罪ノ未遂犯ニ關スル法ヲ定メタルモノニシテ偽造變造罪ノ未遂犯ニ關スル法ヲ定メタルモノニ非サルトニ因ルモノナリ

○或問テ曰ク偽造變造ノ情ヲ知テ貨幣ヲ取受シタリト雖モ固ヨリ之ヲ行使スルノ意ナキカ故ニ之ヲ行使セサル者ハ如何處分スヘキ乎ト曰ク此ノ如キ者ハ法律之ヲ罰スルヲ得サルナリ左ニ其所以ヲ示サン

抑本條ノ罪ハ三箇ノ條件ニ成ル曰ク偽造變造ノ情ヲ知リタルコト曰ク之ヲ取受シタルコト曰ク之ヲ行使シタ

ルコト是レナリ若シ此三條件中其一ヲ闕クトキハ本條之ヲ罰スルヲ得ス而シテ第二項ノ未遂犯罪ハ行使ノ一條件ヲ必要トセサルヤ勿論ナリト雖モ犯人ニ其取受シタル偽造變造ノ貨幣ヲ行使スルノ意アルヲ必要トスルヤ亦敢テ疑ヲ容レサルナリ何トナレハ行使ノ意ナキモノハ行使ヲ必要トスル罪ノ未遂犯ヲ形成スルノ理アラサレハナリ且本項ニハ其未タ行使セサル者云々トアリ未タ行使セストハ行使スルノ意アルモ未タ行使セサルノ義ヲ明カニスルモノナリ故ニ本件ノ如キ者ハ之ヲ不問ニ付スヘク決テ之ヲ罰スヘカラサルナリ

○佛刑法第三百三十二條 第三百三十三條

同第三百三十三條 第三百三十四條

第三百九十條

同第三百三十四條

第百八十二條
全文ヲ掲ク

第百九十一條

前數條ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ
六月以上二年以下ノ監視ニ付ス^{〔刑〕三八、}

○本條ハ輕罪ノ刑ニ監視ヲ附加スル旨ヲ定ム
貨幣ヲ偽造^シ及^ヒ之ヲ行使スルノ罪ハ再犯ノ恐アリ故
ニ本刑輕罪ノ刑ニ該ルヘキモノト減シテ輕罪ノ刑ニ該
ルヘキモノトヲ問ハス六月以上二年以下ノ監視ニ付シ
以テ犯人ノ動靜ヲ監視^シ其懲悔ノ實否ヲ試察スヘシト
定メタリ

第百九十二條

貨幣ヲ偽造變造シ及^ヒ輸入收受シタル者未タ行使セ

サル前ニ於テ官ニ自首シタル時ハ本刑ヲ免シ六月以
上三年以下ノ監視ニ付ス^{〔刑〕八五、}
若シ職工雜役及^ヒ房屋ヲ給與シタル者未タ行使セサ
ル前ニ於テ自首シタル時ハ本刑ヲ免ス^{同上}

一 本條ノ主旨

二 第一項ノ解

三 第二項ノ解

四 本條ノ自首ハ未發既發ヲ問ハサル乎○未タ行使
セサル前ニ真心悔悟ノ情ニ因リ其事ヲ停止シタ
ル者ハ如何

〔二〕○本條ハ第百八十二條乃至第百九十一條ノ罪ニ付キ自
首ノ特例ヲ定ム

第百九十一條 第百九十二條

〔二〕〇第一項 本項ハ貨幣ヲ偽造變造シ及ヒ輸入取受シタル者ニ關シ自首ノ特例ヲ定ム

貨幣ヲ偽造變造シ若クハ輸入取受スルト雖モ未タ之ヲ行使セサル間ハ或ハ危害ヲ社會ニ慘敷スルコトアルヘキヤノ虞アリト雖モ未タ現ニ社會ニ害ヲ被ラシメタリトイフヲ得ス既ニ社會ニ害ヲ生シタル以上ハ縱ヒ自首ヲ爲スモ其害ヲ填補スルヲ得スト雖モ危害未タ生セサル以前ニ在テ自首ヲ爲ストキハ危害ヲ未然ニ防遏スルカ故ニ之ヲ罰スルノ要ナシ是レ本項ニ貨幣ヲ偽造變造シ及ヒ輸入取受シタル者未タ行使セサル前ニ於テ官ニ自首シタルトキハ本刑ヲ免ストアル所以ナリ

然レトモ一旦貨幣ヲ偽造變造シ若クハ輸入取受シ社會

ニ大害ヲ加ヘント爲シタル者ハ官ニ自首シタリト雖モ其果テ良心ヨリ出テタル乎將タ一時其罪ヲ免カレント欲スル奸計ナル乎得テ知ルヘカラス且一旦良心ニ制セラレ自首シタリト雖モ固ト是等ノ罪ハ一大慾情ニ基クモノナレハ或ハ再ヒ之ヲ犯スヤノ疑ナキ能ハス故ニ本刑ハ之ヲ免スルト雖モ仍ホ犯人ヲ六月以上三年以下ノ監視ニ付スヘシト定メタリ

〔三〕〇第二項 本項ハ職工雜役及ヒ房屋ヲ給與シタル者ニ關シ自首ノ特例ヲ定ム

職工雜役及ヒ房屋ヲ給與シタル者ハ其情輕ク且貨幣ヲ偽造變造シ若クハ輸入取受シタル者ヨリモ再犯ノ憂ナシ故ニ未タ行使セサル前ニ於テ官ニ自首シタルトキハ

本刑ヲ免シ之ヲ監視ニ付スルヲ要セサルナリ

○本項ニ所謂未ダ行使セストハ職工雜役等ノ未ダ偽造變造ノ貨幣ヲ行使セサルヲイフモノニ非ス正犯ノ未ダ之ヲ行使セサルヲイフモノナリ今其前後ニ因テ職工雜役等ノ刑ニ輕重ノ區別ヲ設ケタルハ他ナシ若シ其未ダ行使セサル前ニ於テ職工雜役等ノ官ニ自首スルアラハ官直チニ正犯ヲ逮捕シ偽造變造ニ係ル貨幣ノ流通行使ヲ停止スルヲ得ルヲ以テ其危害ヲ未然ニ防遏スルノ効ヤ大ナリ而シテ其後ニアルモノハ全ク此効ヲ失フカ故ナリ故ニ正犯ノ貨幣ヲ行使シタルト否トニ因テ刑ニ區別ヲ設ケタルハ亦能ク其理ニ適スルモノトイフヘシ

〔四〕○或問テ曰ク本條ニ所謂自首ハ未發既發ヲ問ハサル乎

ト曰ク曩ニ第二百二十六條ニ於テ開說セシ如ク未發自首ニ限レルモノト解セサルヘカラス今更ニ本條ニ就テ箇單ニ其所以ヲ說カン

抑舊法ニ於テハ自首ニ數箇ノ種類ヲ設ケ未發自首陳告自首聞捕自首ト爲シタリシト雖モ此刑法ニ於テハ未發自首ノ一アルノニ他種ノ自首アルニ非ス故ニ本條ニハ單ニ自首トアルモ其自首タル事未ダ官ニ發覺セサル前ノモノナルコト明カナリ若シ然ラスシテ未發既發ヲ問ハストセハ正犯未ダ偽造變造ノ貨幣ヲ行使セサル前既ニ捕ニ就キ官其職工雜役者等ヲ覺知シタル後ト雖モ其職工等官ニ自首スルニ於テハ亦其刑ヲ全免セサルヘカラスナルニ至ラン此ノ如キ理ハ決テ之レアルヘカラス

ナリ

○又問テ曰ク貨幣ヲ偽造變造シ若クハ輸入取受スル罪ノ施行ハ偽造變造若クハ輸入取受ニ着手シタルニ始マリ之ヲ行使シタルニ終ル故ニ未タ施行ヲ終ラサル前即チ未タ貨幣ヲ行使セサル前ニ眞心悔悟ノ情ニ因リ其事ヲ停止シタル者ハ其罪ヲ問ハサルモノ、如シ如何ト曰ク此點ハ曩ニ第二百二十六條ニ於テ開説セシ如ク其罪ヲ問ハサルヲ得サルナリ是レ法律ニ未タ行使セサル者ノ爲メ特ニ刑名ヲ定メ且本條ニ未タ行使セサル前ニ於テ官ニ自首シタルトキハ本刑ヲ免ストアルニ因テ明カナリ

○佛刑法第三百三十八條千八百六十三年五月十三日改正 第三百三十二條ニ

記載シタル重罪ヲ犯シタル者此重罪ヲ遂ケサル前且未タ起訴アラサル前ニ官ニ自首シ且正犯ヲ告發シタルトキ又ハ起訴後ト雖モ他ノ犯人ノ逮捕ヲ助ケタルトキハ刑ヲ免セラルヘシ然レトモ犯人ハ畢生間又ハ定期間監視ニ付セラル、コトアルヘシ刑一、四、四、五、一〇、八、

第三百九十三條

貨幣ヲ取受スルノ後ニ於テ偽造又ハ變造ナルヲ知リ之ヲ行使シタル者ハ其價額ニ倍ノ罰金ニ處ス但其罰金ハ二圓以下ニ降スヲ得ス

○本條ハ情ヲ知ラスシテ偽造變造ノ貨幣ヲ取受シ後チ其偽造變造ナルコトヲ知テ之ヲ行使シタル者ノ罪ヲ定

第三百九十三條

貨幣ヲ偽造變造シ若クハ輸入取受シタル者ハ法律之ヲ
 嚴罰スト雖モ其既ニ之ヲ行使シタル場合ニ於テハ此等
 ノ者ヲ罰スルノミニテハ未タ以テ社會ノ公害ヲ防クニ
 足ラス尙ホ其貨幣ノ世間ニ流通スルヲ防遏セサルヘカ
 ラサルナリ故ニ立法官特ニ本條ヲ設ケ情ヲ知ラズシテ
 貨幣ヲ取受シタル後其偽造變造ナルコトヲ知テ之ヲ行
 使シタル者ヲ罰スヘシト定メタリ此ノ如ク貨幣ヲ取受
 シタル後ニ於テ其真正ノモノナラサルヲ知テ之ヲ行使
 シタル者ヲ罰スルトキハ人民自カラ刑辟ニ觸ル、チ恐
 レ敢テ偽造變造ノ貨幣ヲ行使セサルニ至リ從テ其流通
 滅熄シ一般ノ信用忽チ回復セラル、コ至ルヘキナリ

然レトモ此事タル偽造變造ノ情ヲ知テ貨幣ヲ取受シタ
 ルニ非ス又不正ノ利益ヲ得ントスルノ念ニ出ツルモノ
 ニ非ス唯自己ノ損失ヲ免カレント欲スルニ過キサレハ
 其情狀殊ニ輕シトス故ニ止々其價額ニ倍ノ罰金ニ處シ
 之ニ體刑ヲ科セサルナリ

或問テ曰ク價額ニ倍ノ罰金トハ命價ニ倍ノ罰金ナル乎
 將々實價ニ倍ノ罰金ナル乎ト曰ク貨幣中金銀貨ト紙幣
 トノ間ニハ大ニ實價ヲ異ニスルモノアリ然レトモ本條
 ニ所謂價額トハ其命價ヲ指スモノト解セサルヘカラサ
 ルナリ
 或ハ曰ク價額ニ倍ノ罰金ニ處スルヲ法ハ實際上往々酷
 ニ失スルコトアラント或ハ然ラン然レトモ此レ唯皮相

ニ足ノ重子モ△
 断ルニ定メテ生
 ハルモノニ非ス可
 モニテ各々
 疑ナキヲ解キ流
 百ノ腦髓ヲ錯
 乱セリ以テ自
 ノ得タリトス方
 今刑法治罪法院
 ノノ徒ニ以テモ
 六條ヲ止マンノ

東洲學人評

此處ニ至ルニ至リ

ノ見ノミ未タ此法ヲ以テ攻撃スルノ鋭鋒ト爲スコ足ラ
 ス此處分法タル社會命令權ヲ維持スルコ欠クヘカラサ
 ルモノナリ何トナレハ本條ハ自己ノ損失ヲ免カレンカ
 爲メ行フ所ノ所爲ヲ罰スルモノナレハ人民ニ示スニ此
 罪ヲ犯ストキハ却テ其損ヲ倍蕪スヘキ旨ヲ明カニスル
 コ非サレハ到底其目的ヲ達スル能ハサレハナリ若シ然
 ラスシテ罰金ノ額ヲ一定ニスルトキハ多數ノ罰金ヲ出
 スノ損害ト貨幣ヲ行使セサルニ因リ失フヘキ利益トチ
 比照シ罰金ヲ出スノ損害却テ少ナルトキハ之ヲ行使ス
 ル者アルニ至リ遂ニ徒法ニ歸スルニ至ルヘシ加之罰金
 ニ多寡ノ兩數ヲ設クルハ是レ各事件ニ付キ適當ナル額
 ヲ定ムルノ標的ナキカ故ナリ若シ之カ確乎タル標的アリ

ラハ毎事之ニ準シテ其額ヲ定ムルノ正鵠ナルニ如カサ
 ルナリ本條ノ場合ノ如キ之カ確乎タル標的アリ故ニ每
 事其標的ニ準シテ罰金ノ額ヲ定メタルニシテ最モ能ク
 其理ニ適スルモノナリ

本條但書ニ其罰金ハ二圓以下ニ降ストチ得ストアリ是
 レ第二十六條ニ主刑ノ罰金ハ二圓以上ナリト定メタル
 ニ基クモノナリ此二圓以下ニ降ストチ得ストハ行使シ
 タル貨幣ノ價額ノ二倍二圓ニ滿タサルトキハ刑ヲ科セ
 サルトノ謂ニ非ス少クモ二圓ノ罰金ニ處スヘシトノ謂
 ナリ故ニ其行使シタルノ額僅々數錢ニ過キサルモ仍ホ
 二圓ノ罰金ニ處スヘキナリ

○佛刑法第三百三十五條 五月十八日改正 前數條ニ記載

シタル加功ハ偽造變造ノ貨幣若クハ綵色ヲ加ヘタル貨幣ヲ眞質ノモノト信シテ受取り之ヲ行使シタル者ニ適施スヘカラス

然レトモ其貨幣ノ不正ナルコトヲ驗審シ又ハ驗審セシメタル後之ヲ行使シタル者ハ其流通セシメタル貨幣ノ命價三倍以上六倍以下ノ罰金ニ處セラルヘシ但何レノ場合ニ於テモ此罰金ヲ十六「フランク」以下ニ降スコトヲ得ス 刑九、七五二以下、一六三、

○ 附言

本節ハ偽造變造ニ係ル貨幣及ヒ其器械ノ處分法ヲ定メス此等ノ物品ハ之ヲ沒收スルヲ得サル乎若シ之ヲ

沒收スヘシトセハ第四十三條ニ記載シタル三箇ノ場合中何レニ依テ之ヲ沒收スヘキ乎左ニ此點ヲ辨スヘシ

第一 偽造變造ニ係ル貨幣ハ之ヲ沒收スヘキ乎○草案第二百二十七條ニハ偽造變造ノ貨幣及ヒ其用ニ供シタル器械ハ何人ノ所爲ナルヲ問ハス管之ヲ沒收ス其偽貨ト交換シタル金額物件ハ之ヲ被害者ニ還付ストアリキ然ルニ該條既ニ削除セラレタルヲ以テ往々此點ニ付キ異論ヲ生セリ高木氏刑解法曰ク第百八十二條以下此條ニ至ルマテノ偽造又ハ變造ノ貨幣若クハ紙幣及ヒ其器械ハ總則第四十三條及ヒ第四十四條ノ例ニ照シテ沒收ス可キモノトスト此説タル偽造變

造ノ貨幣及ヒ器械ヲ沒收スヘシトイフニ止マリテ之
 ヲ犯罪ニ因テ得タル物件ト爲ス乎犯罪ノ用ニ供シタ
 ル物件ト爲ス乎將テ法律ニ於テ禁制シタル物件ト爲
 ス乎ヲ明示セサルカ故ニ頗ル曖昧タルヲ免カレサル
 ナリ余思フニ偽造變造ニ係ル貨幣ハ犯罪ノ用ニ供シ
 タル物件ニ非サルハ勿論亦犯罪ニ因テ得タル物件ニ
 モ非ス正サニ是レ一ノ罪體ナリ故ニ法律ニ於テ禁制
 シタル物件ト爲スニ非サレハ之ヲ沒收スルヲ得ス今
 之ヲ以テ法律ニ於テ禁制シタル物件ト爲サン乎此點
 ハ宜ク區別ヲ設ケテ論セサルヘカラス貨幣ハ之ヲ偽
 造變造スルヲ禁シ又偽造變造ノ貨幣ハ情ヲ知テ之ヲ
 收受シ及ヒ之ヲ行使スルヲ禁スルト雖モ偽造變造ニ

係ル貨幣ナルコトヲ知ラスシテ之ヲ受取りタル者ハ
 之ヲ所持シ居ルモ法律之ヲ禁セス故ニ偽造變造ノ貨
 幣偽造變造者ノ手裡ニ在ルトキハ勿論情ヲ知テ之ヲ
 收受シタル者ノ手裡ニ在ルトキハ應禁物トシテ之ヲ
 沒收スルヲ得ヘシ然レトモ若シ其偽造變造ナルコト
 ナ知ラスシテ受取りタル者ノ手裡ニ在ルトキハ之ヲ
 沒收スルヲ得ス何トナレハ法律ハ偽造變造ノ貨幣ヲ
 私有スルヲ禁セサレハナリ
 然レトモ偽造變造ノ貨幣ハ之ヲ世間ニ存在セシムル
 トキハ往々社會ニ危害ヲ生スルノ憂アリ故ニ人民ノ
 之ヲ私有スルトキト雖モ仍ホ之ヲ取締チ爲サレハ
 カラス明治九年第五十七號布告ハ今日ニ行ハルモ

手記
 明治九年第五十七號布告

ノナレハ銀行爲替兩替屋又ハ官廳ニ於テ傭入タル鑑
 定人等金銀銅貨紙幣ノ贗造品ヲ發見シタルトキハ同
 布告第一條ニ依リ詳ニ其原由及ヒ持主ノ宿所姓名ヲ
 尋テ其面前ニ於テ斷截シ速ニ最寄警察出張所或ハ屯
 所或ハ區戶長ニ差出シ其顛末ヲ申立ツヘク若シ官廳
 ニ關スルトキハ該廳ヨリ警察官署ニ通知セサルヘカ
 ラス銀行紙幣摺造札描改札處分方モ亦右布告ニ依リ明治十四年大藏省令第四十號達參看故ニ此刑法
 ニ從ヒ之ヲ沒收スルヲ得サルモ右布告ニ依リ充分ニ
 之ヲ取締ヲ爲スヲ得ヘキナリ

第二 貨幣ヲ偽造變造スルノ器械ハ之ヲ沒收スヘキ
 乎○前ニ掲ケタル草案第二百二十七條ニハ何人ノ所
 有ヲ問ハス之ヲ沒收スヘキノ明文アリシト雖モ該條

既ニ削除セラレタルカ故ニ今日ニ在テハ犯人ノ所有
 ニ係ルトキハ之ヲ犯罪ノ用ニ供シタル物件トシテ沒
 收スヘキモ若シ他人ノ所有ニ係ルトキハ之ヲ沒收ス
 ルヲ得サルナリ然レトモ人民ニ單ニ貨幣ヲ偽造變造
 スルノ用ニ供スヘキ器械ヲ私有スルヲ許ストキハ他
 日之ヲ使用シテ公益ヲ害スル者ヲ生スルヤノ虞アル
 カ故ニ此點ニ付テハ速ニ第六十一條ト同一ノ規則
 ヲ設ケラレシコトヲ希望ス

第二節 官印ヲ偽造スル罪

○本節凡テ八條官印ヲ偽造スル罪ヲ定ム

官印トハ御璽國璽各官署ノ印章記號印紙界紙郵便切手

官印ヲ偽造スル罪

等ヲイフ此等ノモノハ最モ世ノ信用ヲ貴ムモノニシテ
一旦世ノ信用ヲ失フトキハ爲メニ大害ヲ生スルモノナ
リ故ニ之ヲ偽造シ其信用ヲ滅殺スル者ヲ嚴罰シテ以テ
一般ノ信用ヲ維持ス是レ本節ノ設ケアル所以ナリ

第百九十四條

御璽國璽ヲ偽造シ又ハ其偽璽ヲ使用シタル者ハ無期
徒刑ニ處ス

- 一 本條ノ解附本條以下數條ヲ改正スヘキノ說
- 二 本條以下ニ所謂使用トハ押用ヲイフ乎

〔一〕〇本條ハ御璽國璽ヲ偽造シタル者及ヒ其偽璽ヲ使用シ
タル者ノ罪ヲ定ム
御璽トハ天皇ノ玉璽ニシテ勅任官ノ辭令書等ニ押用ス

ルモノナリ又國璽トハ大日本國璽ニシテ外國ニ關スル
文書等ニ押用スルモノナリ此御璽國璽ハ世ノ信用最モ
厚深ニ且最モ重要ナル事件ニ使用スルモノナレハ之ヲ
偽造シ若クハ使用シ以テ其信用ヲ害スルトキハ其害ノ
及フ所亦從テ大ナリトス故ニ之ヲ偽造シタル者及ヒ偽
璽ヲ使用シタル者ハ無期徒刑ニ處スヘシト定メタリ
本條ニ所謂偽璽ヲ使用シタル者トハ其偽璽ナルコトヲ
知テ之ヲ使用シタル者ヲ云フ故ニ偽璽ヲ使用シタルモ
其偽璽タルコトヲ知ラサルトキハ本條ノ正面ニ當ラサ
ルナリ

或問テ曰ク貨幣ハ之ヲ偽造シタルノミニテハ未ダ罪ヲ
爲サズ未遂犯ニ罰ニ成ルト雖モ其本罪ハ之ヲ行使シタル

トキ始メテ成立スルモノナリ然ルコ本條以下ニ於テハ
 唯偽造シタルノミコテ既ニ罪ヲ成立セシムルハ少ク嚴
 ニ失スルニ非スヤト曰ク高木氏刑法曰ク貨幣偽造ノ罪
 ニ在テハ偽造已ニ成テ之ヲ行使シタル者始メテ偽造ノ
 罪アリトシ其未タ行使セサル者ハ之ヲ視ル猶ホ未遂犯
 罪ノコトシ此節官印偽造ノ罪ニ在テハ其偽造シタル者
 ト之ヲ使用シタ者ト分テ各同一ノ重刑ヲ科スルハ何
 ソヤ義解者亦未ダ其確然タル理由アルヲ見ス或曰ク貨
 幣偽造ノ目的ハ專ラ之ヲ通用シテ利ヲ圖ルニ在リ故ニ
 之ヲ行使スルニ於テ其罪始メテ重シ御璽國璽ノ偽造ニ
 在テハ其目的之ヲ通用セシムルニ在ラス故ニ唯偽造ス
 ルノミヲ以テ其罪已ニ重シト此說未ダ全ク信ス可カラ

ス何者御璽國璽ハ固ヨリ其偽造シタル現物ハ流通行使
 スルモノニアラスト雖モ必スヤ其影蹟ヲ使用シテ爲ス
 所アラント欲スル者タラサルヲ得ス然ラハ則チ是亦之
 チ使用スルヲ以テ目的ト爲スモノニシテ偽璽ハ即チ貨
 幣ノ偽造ニ於ケル鑄形印版ニ異ナラサレハナリ今敢テ
 之カ說ヲ求メハ義解者ハ將ニ云ハントス前條ハ單ニ社
 會ノ公害ヲ主トシ此條ハ單ニ道德ノ害ヲ主トスルニ因
 テ此差別アルモノナラント果シテ然ルカ余カ考案ハ之
 ニ異ナリ夫レ刑法ハ道德ノ害ヲ主トスルモノニ非スシ
 テ其主腦ハ專ラ社會ノ公害ヲ抑制スルニ在ルハ夙ニ世
 人ノ識認スル所ニシテ殊更ニ余ノ嘖々ヲ俟タサルナリ
 故ニ今立法官ノ官印ヲ偽造シタル者ヲ嚴罰スヘシト定

大タルモ亦必ス單ニ道德ノ害ヲ主トスルモノニ非サル
 ヘシ抑本條ニ於テ御璽國璽ヲ偽造シタル者ト其偽璽ヲ
 使用シタル者トヲ取テ同ク無期徒刑ニ處スヘシト定メ
 タルモノハ是レ御璽國璽ハ容易ニ之ヲ偽造スルモノニ
 非ス之ヲ偽造スル者ハ陰ニ大謀ヲ企ツルノ奸望アルカ
 故ニシテ其偽造ヤ既ニ社會ヲ害スル大ナリト爲シタル
 ニ由ルモノナリ故ニ主トシテ社會公害ノ大小ニ因リ刑
 ナ量定セルモノニシテ單ニ道德ノ害ヲ主トシタルニ非
 サルナリ然レトモ高木氏ノ說ノ如ク偽造者ト使用者ト
 ナ區別シ之ヲ同刑ニ處スルハ能ク其當ヲ得タルモノト
 イフヲ得ス何トナレハ管ニ官印ヲ偽造シテ使用シタル
 者ノ刑ト單ニ之ヲ偽造シ若クハ其偽印ヲ使用シタル者

ノ刑トノ間ニ輕重ノ別ナキノミナラス偽造ヲ以テ本罪
 ト爲スヤ其之ヲ使用スルノ意ナルト否トヲ問ハス之ヲ
 罰スルノ惡ムヘキ結果ヲ生スヘケレハナリ故ニ本條以
 下モ亦前節ト同ク之ヲ改正シ官印ヲ偽造シテ使用シタ
 ルモノヲ本罪ト爲シ未ダ使用セサル者ハ本刑ニ一等ヲ
 減シ既ニ偽造ニ着手シテ未ダ成テサル者ハ本刑ニ二等
 ナ減スヘシト定メラレンコトヲ希望ス

使用レハ...
 【二】〇或問テ曰ク本條以下數條ニ使用ノ語アリ此使用トハ
 文書ニ偽印ヲ押用スルヲイフ乎將々之ヲ押用シタル文
 書ヲ使用スルヲイフ乎ト曰ク此點ニ付テハ甲乙二説アリ
 リ甲曰此刑法ニ所謂行使トハ俗ニ所謂用立テルノ義ナ
 リト雖モ使用トハ單ニ用フルノ義ニシテ之ヲ用立テタ

ルト否トヲ問ハサルモノナリ故ニ本條以下數條ニ所謂
 使用トハ之ヲ押用ト解スヘシト乙曰ク偽印使用トハ其
 偽印ヲ用立テルヲイフ例ヘハ借金證書ヲ作り之ニ偽印
 ナ押捺シタルノミコテハ未ダ之ヲ使用シタリト爲サス
 其證書ヲ債主ニ渡シタルトキ始メテ之ヲ使用シタリト
 爲スノ類ナリト今法律ニ使用行使ノ二語ヲ用ヒタルニ
 因テ觀レハ甲說能ク其當ヲ得タルカ如シト雖モ余ハ乙
 說ヲ以テ正解ナリト信ス抑行使トイヒ使用トイフ一ハ
 體ヲ示シ一ハ働キヲ示スノ差アリト雖モ其實全ク相同
 シ何レモ用立ツルノ義ナリ唯印ヲ行使スルトイフヲ得
 サルノミ是レ印章ハ直チニ之ヲ行使スルモノニ非ス必
 ス之ヲ押用シテ其用ニ供スルモノナレハナリ故ニ本條

以下ニ所謂使用トハ單ニ押用ヲ示スモノニ非ス偽印ヲ
 押用シテ之ヲ用立ツルヲイフモノナリ然レトモ第九
 十六條ニ記載シタル官印ノ如ク之ヲ押用シタルノミニ
 テ既ニ用立ツモノハ押用ヲ指シテ使用トイフヘキナリ
 若シ然ラスシテ使用トハ單ニ押用ヲ指スモノトセハ法
 律ニ明カニ押用ト書スヘク故ラニ其義ノ廣漠ナル使用
 ノ語ヲ記載スルノ理アラサルナリ
 ○佛刑法第三百三十九條 國印ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使
 用シタル者ハ

官ノ會計局ヨリ其印紙ヲ附シテ發行セシ公債證券
 法律ヲ以テ允許シタル銀行ノ手形ヲ偽造變造シ又
 ハ此等偽造變造ニ係ル公債證券及ヒ手形ヲ使用シ

又ハ之ヲ佛朗西領地内ニ輸入シタル者ハ

無期徒刑ニ處セラルヘシ 〔刑〕七、一五、一六、一八、二二、三六、一四、一六、三、一八、二二、三

第百九十五條

各官署ノ印ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使用シタル者ハ重

懲役ニ處ス 〔刑〕二〇八、六

一 本條ノ解

二 官吏ノ役印ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使用シタル者ハ如何

〔一〕〇本條ハ各官署ノ印ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使用シタル者ノ罪ヲ定ム

官署トハ太政官各省元老院大審院裁判所警視廳府縣廳等及ヒ右等官署ノ部局課若クハ支廳等ヲイフ

此等官署ノ印ハ各輕重ナキニ非スト雖モ何レモ世ノ信用ヲ要スルモノニシテ一旦信用ヲ人民ニ缺クトキハ其社會ヲ害スル實ニ少小ナラス故ニ之ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使用シ以テ一般ノ信用ヲ害スル者ハ之ヲ重罪ト爲シ重懲役ニ處スヘシト定メタリ

〔二〕〇或問テ曰ク官吏ノ役印即チ何官誰某ト刻シアル印章ヲ偽造シ若クハ其偽印ヲ使用シタル者ハ何レノ條ニ依テ之ヲ罰スヘキ乎ト曰ク高木氏 刑法 解法ハ凡ソ官名アルモノハ假令一個人ノ氏名ヲ記スルト雖モ其用フル所獨リ公用ニ於テスル而已ニシテ即チ官印タリ又其一般人民ノ信用スル所彼レ是ノ間ニ於テ毫モ相異ナルナシ故ニ官印偽造ヲ以テ論シ此條ニ依リ處分ス可シト説ケリ村

田小笠原兩氏ハ各官署ノ印トハ官署ノ正印チイフト説ケルヲ以テ官吏ノ官印ハ本條ノ正面ニ當ラスト爲ス者ノ如シ余ハ高木氏ノ説ニ左袒セントス何ントナレハ官吏ノ官印ト官署ノ印トハ一般人民ノ信用スル所毫モ異ナラサルノミナラス此刑法ニ於テハ官署ノ語中ニ官吏ヲ包含セシムルコト往々之レアレハナリ例ヘハ第四百七十四條第一項ニ所謂官署ノ如キ又第四百七十七條ニ所謂官署ノ如キ何レモ其語中ニ官吏ヲ包含スルモノナリ

○佛刑法第四百十條 一箇又ハ數箇ノ政府ノ印紙又ハ森林ノ記號ニ用フル官ノ鑿金銀ノ記號ニ用フル極印ヲ偽造變造シタル者又ハ偽造變造ノ紙類證券印紙鑿金極印ヲ使用シタル者ハ有期ノ徒刑ニ處セ

ラルヘシ此場合ニ於テハ常ニ其刑ノ長期ヲ適用スヘシ〔刑〕七、一五、一六、一七、一八、一九、二〇、二一、二二、二三、二四、二五、二六、二七、二八、二九、三〇、三一、三二、三三、三四、三五、三六、三七、三八、三九、四〇、四一、四二、四三、四四、四五、四六、四七、四八、四九、五〇、五一、五二、五三、五四、五五、五六、五七、五八、五九、六〇、六一、六二、六三、六四、六五、六六、六七、六八、六九、七〇、七一、七二、七三、七四、七五、七六、七七、七八、七九、八〇、八一、八二、八三、八四、八五、八六、八七、八八、八九、九〇、九一、九二、九三、九四、九五、九六、九七、九八、九九、一〇〇以下、

同第四百十二條五月八日改正 政府ノ名義ヲ以テ各種ノ商品ニ押用スヘキ記號ヲ偽造シ又ハ此偽造ノ記號ヲ使用シタル者各官署ノ印章印紙記號ヲ偽造シ又ハ偽造ノ印章印紙記號ヲ使用シタル者郵便切手ヲ偽造シ又ハ故テニ偽造ノ郵便切手ヲ使用シタル者ハ二年以上五年以下ノ禁錮ニ處セラルヘシ」
犯人ハ尙ホ其刑ヲ受ケ了リタル日ヨリ五年以上十年以下ノ時間此法典第四十二條ニ記載シタル權利ヲ剝奪セラル、コトアルヘシ
犯人ハ又裁判官渡ニ因リ同一ノ年限間監視ニ付セ

ラル、コトアルヘシ

以上ノ規則ハ同一ノ輕罪ノ試犯ニ適用セラレヘシ

〔刑九、四〇以下、四三以下、五八、五九以下、六一以下、六三以下、六四以下、六五以下、六六以下、六七以下、六八以下、六九以下、七〇以下、七一以下、七二以下、七三以下、七四以下、七五以下、七六以下、七七以下、七八以下、七九以下、八〇以下、八一以下、八二以下、八三以下、八四以下、八五以下、八六以下、八七以下、八八以下、八九以下、九〇以下、九一以下、九二以下、九三以下、九四以下、九五以下、九六以下、九七以下、九八以下、九九以下、一〇〇以下〕

第九十六條

產物商品等ニ押用スル官ノ記號印章ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使用シタル者ハ輕懲役ニ處ス〔刑二〇八、六、七、八、九、一〇、一一、一二、一三、一四、一五、一六、一七、一八、一九、二〇、二一、二二、二三、二四、二五、二六、二七、二八、二九、三〇、三一、三二、三三、三四、三五、三六、三七、三八、三九、四〇、四一、四二、四三、四四、四五、四六、四七、四八、四九、五〇、五一、五二、五三、五四、五五、五六、五七、五八、五九、六〇、六一、六二、六三、六四、六五、六六、六七、六八、六九、七〇、七一、七二、七三、七四、七五、七六、七七、七八、七九、八〇、八一、八二、八三、八四、八五、八六、八七、八八、八九、九〇、九一、九二、九三、九四、九五、九六、九七、九八、九九、一〇〇〕
書籍什物等ニ押用スル官ノ記號印章ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使用シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス同上

一 本條ノ主旨

二 第一項ノ解

三 第二項ノ解

〔一〕〇本條ハ前二條ニ定メタル印章ヲ除クノ外官ノ記號印章ヲ偽造シ又ハ之ヲ使用シタル者ノ罪ヲ定ム

本條ニ定メタル官ノ印章及ヒ記號ハ一種特別ノ用ニ供スルモノニシテ前條ニ記載シタル官印ト同カラス且其利害ノ影響スル所前條ノ官印ヨリモ稍小ナリ故ニ亦從テ其刑ヲ輕減セリ

〔二〕〇第一項 本項ハ產物商品等ニ押用スル官ノ記號印章ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使用シタル者ノ罪ヲ定ム

產物商品トハ官有ト民有トチ問ハス一般ノ產物商品ヲ總稱スルモノナリ故ニ官有ノ產物商品ニ押用スル記號印章ハ勿論民有ノ產物商品ニシテ官ノ檢印其他ノ記號印章ヲ要スルモノニ押用スヘキモノヲ偽造シ又ハ其偽

造シタル者ノ罪ヲ定ム

印ヲ使用シタル者ハ本項ニ依リ之ヲ處斷スヘキナリ
 或問テ曰ク本項ニハ產物商品等トアリ此ノ等ノ字ニハ
 如何ナル種類ノモノヲ包含スル乎ト曰ク例ヘハ稅關ニ
 於テ產物商品ニ非サル輸出入物ニ押用スル記號印章
 ノ類ノ如キ皆ナ本項ノ正面ニ當ルヘキナリ之ヲ要スル
 ニ前條ニ定メタル各官署ノ印章官吏ノ役印及ヒ次條ニ
 定メタル書籍什物等ニ押用スル官ノ記號印章ヲ除クノ
 外ハ總テ本項ニ依リ處分スルモノト解シテ敢テ不可ナ
 ルコトナカルヘシ

〔三〕〇第二項 本項ハ書籍什物等ニ押用スル官ノ記號印章

ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使用シタル者ノ罪ヲ定ム
 本項ニ所謂書籍什物ハ官有ト民有トヲ問ハサル乎高木

氏刑解法曰ク專テ諸官署ノ圖書印又ハ其什具ニ用フル番

號烙印ノ類ヲ云フモノナリト雖モ他又人民ノ所有品〔例〕

ヘハ荷車人力車其他人民私有ノ銃炮等ニ施ス所ノ檢印

極印番號印ノ類ヲ併セ云フナリト村田氏刑解法曰ク本條

ノ官印ハ前條ノ正印トハ其使用異ナリ特ニ諸產物〔蠶種

生糸、製茶、鱒、鮭、鹿、牡蠣ノ罐詰麥酒鱈肝油其他各種ノ海產

物等ノ類諸商品〔度量衡荷車人力車或ハ人民所持ノ銃砲

等ノ類〕等ニ官署ヨリ檢印シテ其物品ノ確實ナルヲ證

ス可キ表記極印ノ類ヲ云フ云々官ノ書籍什物ノ類ニ押

用スル記號印章ハ止メ官ノ物件ナルヲ示スマテノモ

ノニシテ一般ノ信用ニ係ルコト少シ云々ト小笠原氏刑解法

之ト其說ヲ同フセリ余ノ所見ヲ以テスレハ村田氏ノ說

蓋シ其當チ得タリトイフヘシ抑前項ノ刑重罪ニシテ本
 項ノ刑輕罪ナル所以ノモノハ前項ノ罪ハ一般ノ信用ヲ
 害スル大ナルモ本項ノ罪ハ唯官ノ私印ヲ偽造シ若クハ
 其偽印ヲ使用スルニ止マリ其一般ノ信用ニ關スルコト
 淺小ナルカ故ナリ然ルニ高木氏ノ說ノ如ク荷車人力車
 等ニ施ス官ノ記號印章モ亦本項ニ包含スヘシトセハ何
 故ニ此等ノ記號印章ト產物商品等ニ押用スル記號印章
 トノ間ニ此重大ナル差違即チ其一ハ重罪トシ其一ハ輕
 罪トスルノ區別ヲ設ケタル乎恐クハ其理ヲ發見スルヲ
 得サルヘシ故ニ本項ハ官ノ所有物ナルコトヲ證スヘキ
 記號印章ニ限レルモノト解セサルヘカラサルナリ

○佛刑法第四百十條 前條ニ全
 文ヲ掲ク

同第四百四十二條 同上

第九十七條

御璽國璽官印記號印章ノ影蹟ヲ盜用シタル者ハ前數
 條ニ記載シタル偽造ノ刑ニ照シ各一等ヲ減ス
 若シ監守者自ラ犯シタル時ハ偽造ノ刑ニ同シ

- 一 本條ノ主旨
 - 二 第一項ノ解
 - 三 第二項ノ解附本條ヲ改正スヘキノ說
- 〔一〕〇本條ハ前數條ニ定メタル官印ノ影蹟ヲ盜用シタル者
 ノ罪ヲ定ム

〔二〕〇第一項 本項ハ常人官印ヲ盜用シタルノ罪ヲ定ム
 官印ヲ偽造シ若クハ其偽印ヲ使用シタルト官印ヲ盜用

シタルトハ其公益ヲ害スルノ點ニ至テハ敢テ輕重ナシ
 然レトモ官印ヲ偽造シ若クハ之ヲ使用スルハ犯シ易ク
 防キ難シト雖モ官印ニハ必ス之カ監守者アリ以テ之ヲ
 守護スルカ故ニ之ヲ盜用スルハ爲シ難ク防キ易シ故ニ
 官印ヲ盜用シタル者ハ前數條ニ記載シタル偽造ノ刑ニ
 照シ各一等ヲ減スヘシト定メタリ例ヘハ御璽國璽ヲ盜
 用シタル者ハ有期徒刑ニ處シ書籍什物等ニ押用スル官
 ノ記號印章ヲ盜用シタル者ハ九月以上二年三月以下ノ
 重禁錮ニ處スルノ類ナリ

〔三〕〇第二項 本項ハ監守者自ラ犯シタルトキハ偽造ノ刑

ニ同シキ旨ヲ定ム

監守者ハ己レ官印ヲ守護スルノ責任アリ然ルニ之ヲ守

護セスシテ却テ之ヲ盜用スルハ管ニ其職務ヲ失スルノ
 ミナラス亦之ヲ爲スコ易ク之ヲ防クニ難キカ故ニ必ス
 シモ之ヲ嚴罰セサルヘカラス是レ本項ニ偽造ノ刑ニ同
 シト定メタル所以ナリ
 余思フニ監守者自ラ官印ヲ偽造シ又ハ之ヲ盜用シタル
 トキハ本刑ニ一等ヲ加ヘテ罰スル方蓋シ允當ナルヘシ
 何トナレハ監守者自ラ官印ヲ偽造スルハ其職務ヲ冒瀆
 スルノミナラス常人ヨリモ之ヲ犯スコト易シ又監守者
 自ラ官印ヲ偽造スルト之ヲ盜用スルトハ更ニ輕重アラ
 サレハナリ故ニ本項ヲ改メテ監守者自ラ官印ヲ偽造シ
 又ハ之ヲ盜用シタルトキハ前數條ニ記載シタル偽造ノ
 刑ニ照シ各一等ヲ加フト爲ス乎前條ノ次ニ一條ヲ設ケ

監守者自ラ前數條ノ罪ヲ犯シタルトキハ各本刑ニ照シ一等ヲ加フト定メラレシコトヲ希望ス

○佛刑法第四百十一條 何人ニ限ラス第四百十條ニ示シタル用法ノ一ニ供スヘキ真正ノ印紙鑿錘又ハ極印ヲ不正ニ得テ之ヲ政府ノ權利又ハ利益ヲ害スヘキ方法ニ適用シ又ハ使用シタル者ハ懲役ニ處セラ

ルヘシ刑七、四二以下、二八以下、三四、三六、七一以下、三三以下、同第四百十三條千八百六十三年五月十三日改正 何人ニ限ラス第四百十二條ニ示シタル用法ノ一ニ供スヘキ真正ノ印章印紙記號ヲ不正ニ得テ之ヲ政府又ハ各官署ノ權利又ハ利益ヲ害スヘキ方法ニ適用シ又ハ使用シ若シハ適用又ハ使用ヲ爲サント試ミタル者ハ六月以

上三年以下ノ禁錮ニ處セララルヘシ 犯人ハ尙ホ其刑ヲ受ケ了リタル日ヨリ五年以上十年以下ノ時間此法典第四十二條ニ記載シタル權利ヲ剝奪セララル、コトアルヘシ

犯人ハ又裁判言渡ニ因リ同一ノ年限間監視ニ付セララル、コトアルヘシ刑九、四〇以下、四四以下、五八、一六三以下、

第百九十八條

官ヨリ發行スル各種ノ印紙界紙及ヒ郵便切手ヲ偽造變造シ又ハ其情ヲ知テ之ヲ使用シタル者ハ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

一 本條ノ解附本條ヲ改正スヘキノ説

二 印紙及ヒ郵便切手ノ消印ヲ洗滌擦殺シタル者ハ如何

三 何故ニ本條ニ第百八十七條及ヒ第百八十八條ト同一ノ規則ヲ設ケサル乎

〔一〕〇本條ハ官ヨリ發行スル各種ノ印紙界紙及ヒ郵便切手ヲ偽造變造シ又ハ其情ヲ知テ之ヲ使用シタル者ノ罪ヲ定ム

官ヨリ發行スル各種ノ印紙トハ證券印紙訴訟用印紙賣藥印紙頒曆印紙ノ類タイヒ界紙トハ證券界紙ノ類タイフ此等ハ皆ナ官ノ印章ヲ押用セルモノナレハ之ヲ偽造變造シ若クハ情ヲ知テ之ヲ使用シタル者ハ官印偽造ノ罪ト爲シ一年以上五年以下ノ重禁錮及ヒ五圓以上五十

圓以下ノ罰金ニ處スヘシト定メタリ此ノ如ク本條ノ罪ヲ罰スルニ輕罪ノ刑ヲ以テスルモノハ是レ其罪惡前數條ニ定メタル官印偽造ノ罪ヨリモ輕キカ故ナリ然レトモ余謂ヘク產物商品等ニ押用スル官ノ記號印章ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使用シタル者及ヒ内國通用ノ銅貨ヲ偽造シテ行使シタル者ヲ輕懲役ニ處シ本條ノ罪ヲ重禁錮ニ處スルハ少ク權衡ヲ失スヘシ故ニ本條ノ刑ヲ改メ輕懲役トセラレシコトヲ希望ス然レトモ偽造變造シタル者ト之ヲ使用シタル者トナ同刑ニ處スルハ其當ヲ得ス貨幣偽造ノ罪ト同ク偽造變造シテ行使シタル者ヲ本刑ニ處シ偽造變造既ニ成テ未タ行使セサル者ハ一等ヲ減シ既ニ偽造變造ニ着手シ未タ成ラサル者ハ二等

ヲ滅スト定メラレ又情ヲ知テ之ヲ行使シタル者ハ偽造
 變造ノ刑ニ照シ一等ヲ減シ之ヲ自用ニ供シタル者ハ罰
 金若クハ最モ輕キ體刑ニ處スヘシト定メラル、方蓋シ
 允當ナラン左ニ情ヲ知テ行使シタル者ト唯自用ニ供シ
 タル者ト刑ニ輕重アルヘキ所以ヲ示サン
 例ヘハ偽造變造ノ情ヲ知テ印紙界紙郵便切手ヲ販賣交
 換スル者ト之ヲ自用ニ供スル者トハ其間大ニ其情ヲ異
 ニセルモノアリ之カ販賣交換ヲ爲ストキハ偽造變造ノ
 印紙界紙等世間ニ流布スルヲ以テ一般ノ信用ヲ害スル
 コト大ナリト雖モ之ヲ自用ニ供スルハ既ニ貼用シタル
 印紙及ヒ郵便切手ヲ再ヒ貼用スルト同ク其一般ノ信用
 ヲ害スル少ナキヲ以テ若シ印紙郵便切手ヲ再貼用シタ

ル者ヲ罰スルニ罰金ヲ以テセハ偽造變造ノ印紙ヲ自用
 ニ供シタル者モ亦之ヲ體刑ニ處スルニ及ハサルヘシ若
 シ之ヲ體刑ニ處スヘシトセハ必スシモ最輕ノモノヲ以
 テセサルヘカヲサルナリ

（三）
 洗滌シタル者ハ如何處分スヘキ乎ト曰ク此點ニ付テ
 ハ甲乙二論アリ甲曰ク界紙ニ付テハ別ニ正條ナキモ印
 紙及ヒ郵便切手ニ付テハ次條ニ之カ明文ヲ示セリ之ヲ

〔三〕〇或問テ曰ク印紙又ハ郵便切手ノ消印及ヒ界紙ノ文字
 洗滌シテ再ヒ貼用シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰
 金ニ處スルト雖モ唯之ヲ洗滌シタルニ過キサル者ハ法
 律之ヲ問ハサルナリト乙曰ク此等ノ所爲ハ一旦廢物ニ
 屬シタルモノヲ以テ印紙界紙及ヒ郵便切手ヲ造リタル

モノナレハ一ノ偽造ナリ故ニ本條ニ因リ之ヲ罰スヘシ
 余思フコト乙説其理ナキニ非スト雖モ立法ノ精神ハ決
 テ此ノ如クナラサルヘシ抑立法官ニ於テ本條ニ洗滌ノ
 コトヲ載セサリシハ是レ吾カ國ニ於テハ未タ多數ノ印
 紙郵便切手等ヲ洗滌シテ之カ販賣等ヲ爲ス者ナク時ニ
 數葉ヲ洗滌シテ之ヲ再貼川スル者アルノミナレハ特ニ
 洗滌者ヲ罰スルニ及ハスト爲シ唯次條ヲ設ケタルナリ
 若シ然ラズシテ洗滌ヲ以テ偽造トシ罰スヘシトセハ次
 條ニハ犯人自ラ洗滌シタルト否トチ問ハサルカ故ニ洗
 滌シテ再ヒ用ヒタル者ハ僅ニ罰金ニ處シ之ヲ洗滌シタ
 ル者ハ重禁錮ニ處スルノ不權衡ヲ翹起スヘシ故ニ實際
 盛ニ印紙ノ消印等ヲ洗滌スル者アルニ至ラハ必スシモ

此ノ如クナラサルヘシ
 コトヲ載セサリシハ
 紙郵便切手等ヲ洗滌
 數葉ヲ洗滌シテ之ヲ
 洗滌者ヲ罰スルニ及
 若シ然ラズシテ洗滌
 條ニハ犯人自ラ洗滌
 滌シテ再ヒ用ヒタル
 ル者ハ重禁錮ニ處ス
 盛ニ印紙ノ消印等ヲ

本條ニ此一事項ヲ補足セサルヘカラサルナリ

【三】〇或問テ曰ク何故ニ本條ニ第百八十七條第百八十八條
 ト同一ノ規則ヲ設ケサル乎ト曰ク印紙界紙郵便切手
 偽造變造スルト貨幣ヲ偽造スルトハ其事タル一ナリ故
 ニ貨幣偽造ノ爲メ第百八十七條第百八十八條ノ規則ヲ
 設ケタル以上ハ本條ノ罪ニ付テモ亦同一ノ規則ヲ設ケ
 サルヘカラス然ルニ之ヲ設ケサルモノハ蓋シ偽造貨幣
 ノ罪ハ重罪(外國貨幣外國銀行ノ紙幣及ヒ銅貨ノ變造ハ
 輕罪ナリ)ナレハ職工雜役等ヲ共犯ト爲シ總則ニ照シテ
 罪スルトキハ酷ニ失スト雖モ本條ノ罪ハ一年以上五年
 以下ノ重禁錮五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ該ルヘキ輕
 罪ニシテ其長短多寡ノ差亦最モ懸隔アルカ故ニ此等ノ

者ノ爲メ特例ヲ設クルニ及ハスト爲シタルモノナラン
是レ敢テ其理ナキニ非サルナリ

○佛刑法第四百十二條 第百九十五條
ニ全文ヲ掲ク

第百九十九條

己ニ貼用シタル各種ノ印紙及ヒ郵便切手ヲ再ヒ貼用
シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

○本條ハ印紙及ヒ郵便切手ヲ再貼用シタル者ノ罪ヲ定

ム
印紙及ヒ郵便切手ノ消印ヲ私ニ洗滌シタルト否トチ問
ハス既ニ貼用シタルモノタルヲ知テ再ヒ之ヲ貼用シタ
ル者ハ不正ノ利得ヲ圖ルモノニシテ乃チ公益ヲ害スル
モノナリ故ニ必スシモ之ヲ罰セサルヘカラス然リト雖

モ此罪タル偽造變造ト異ナリテ唯自用ニ供シタルノミ
其罪惡殊ニ輕小ナリトス故ニ唯二圓以上二十圓以下ノ
罰金ニ處スヘシト定メタリ

本條ニハ印紙及ヒ郵便切手ヲ再貼用シタル罪ヲ定メテ
界紙ヲ再用シタル罪ニ及ハス界紙再用ハ實際稀罕ナル
ヘシト雖モ亦決テ之レナシトイフヘカラス故ニ佛文章
案ノ如ク明カニ此點ヲ定設セラレンコトヲ希望ス

前條及ヒ本條ノ事件ニ付テハ特ニ罰則ノ布設アルモノ
多シ故ニ此刑法ニ觸レスト雖モ特別規則ニ觸ル、者ハ
各其罰則ニ依テ處斷スヘキナリ

○佛刑法第四十二條 第百九十五條
ニ全文ヲ掲ク

第二百條

第百九十九條 第二百條

此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス〔刑〕一一三、

○本條ハ輕罪ノ未遂犯ヲ罰スヘキ旨ヲ定ム

此節ニ記載シタル罪ハ未遂犯ト雖モ仍モ公益ヲ害ス故ニ通常罰セサル輕罪ノ未遂犯ト雖モ總則ニ照シテ之ヲ罰スヘシト定メタリ

然レトモ余ハ曩ニ開説シタル如ク本節ノ罪ヲシテ偽造貨幣ノ罪ト同ク使用シタルトキ始メテ成立スルモノト爲シ又未遂犯ノ特例ヲ定メ而シテ本條ヲ削除セラレシコトヲ希望ス若シ本條ヲ削除スルトキハ第九十九條ノ罪ノ未遂犯ハ之ヲ罰スルヲ得サルニ至ルト雖モ同條ノ未遂犯罪ハ縱ヒ之ヲ罰セサルモ別ニ其害アラサルヘ

シ

○佛刑法第四百十三條

第九十九條ニ至文ヲ掲ク

第二百一一條

此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

一 本條ノ解

二 第九十九條ノ罪ヲ犯シタル者モ亦之ヲ監視ニ付スヘキ乎

〔二〕○本條ハ輕罪ノ刑ニ監視ヲ附加スル旨ヲ定ム

此節ニ記載シタル罪ハ其公益ヲ害スル大ニシテ且再犯ノ恐アリ故ニ輕罪ノ刑ニ處スル者ト雖モ仍ホ六月以上二年以下ノ監視ニ付スヘシト定メタリ

〔三〕○或問テ曰ク第百九十九條ノ罪ヲ犯シタル者ニモ亦監視ヲ附加スヘキ乎ト曰ク大審院ニ於テハ數多ノ判決ヲ以テ監視ハ體刑ニ附加スルモノニシテ金刑ニ附加スヘキ性質ノモノニ非ス故ニ主刑罰金ナル場合ニ於テハ決テ監視ヲ附加スヘカラスト定メタリ此レ能ク其理ニ適スルモノナリト雖モ解法上未タ其當ヲ得タリトイフヲ得ス何トナレハ本條ニハ單ニ輕罪ノ刑ニ處スル者云々トアレハナリ故ニ余ハ速ニ此點ノ改正アラシムコトヲ希望ス

○佛刑法第百四十二條項三 第百九十五條

同第百四十三條項三 第百九十七條

○

附言

佛刑法第百四十四條ニ曰ク第百三十八條ノ規則ハ第百三十九條ニ記載シタル罪ニ適用スヘシト其第百三十九條ハ偽造貨幣ニ付キ自首ノ特例ヲ定ムルモノナリ此規則タル能ク其理ニ適スルモノナレハ余ハ之ヲ吾カ法ニ採用シ且之ヲ擴張シテ廣ク本節ノ罪ニ適用セラレンコトヲ希望ス然レトモ此規則ヲ設ケント欲セハ先ツ本節ノ罪ヲ前節ノ罪ト同ク使用ニ因テ成立スルモノト釐正セサルヘカラスト何トナレハ官印ヲ偽造變造シタルノミニテ既ニ公益ヲ害シタリト爲ストキハ縱ヒ之ヲ使用セサル前ニ於テ官ニ自首スルモ本刑ヲ全免スルヲ得サルヘケレハナリ而シテ此法タル

之ヲ第百九十九條ノ罪ニ適用スルヲ得ス故ニ第百九十八條ノ次ニ一條ヲ設ケ第百九十二條ノ規則ハ本節ニモ亦之ヲ適用スト定メラレシコトヲ希望ス

第三節 官ノ文書ヲ偽造スル罪

○本節凡テ六條官ノ文書ヲ偽造スル罪ヲ定ム
官ノ文書トハ私ノ文書ニ對スルノ語ニシテ詔書各官吏ノ公文書公債證書地券其他官吏ノ公證ニ係ル文書ヲイフ然レトモ免狀鑑札ノ如キ特ニ明文アルモノハ本節ノ關知スル所ニ非サルナリ又本節ニハ偽造ト題スルモ其實偽造變造及ヒ毀棄ノ三罪ヲ合セ定ムルモノナリ
官ノ文書ハ其利害ノ影響スル所殊ニ大ナリ故ニ官文書

偽造ノ罪ヲ官印偽造ノ次節ニ置キ之ヲ嚴罰スヘシト定メタリ

凡ソ偽造罪中文書偽造ノ罪ハ最モ困難ナルモノナレハ茲ニ官私ノ文書偽造ニ通シ用フヘキ大綱ヲ論述スヘシ
文書偽造ノ罪ニハ三箇ノ條件ヲ必要トス曰ク其實ヲ變スルコト曰ク惡意ヲ挾ムコト曰ク害ヲ惹起スルコト是レナリ此三條件ノ文書偽造ノ罪ヲ構造スルニ闕クヘカラサルコトハ世人ノ嘗テ疑ヲ容レサル所ナルヘシト雖モ事重要ニ繋ルカ故ニ今「フォースタン、エリ」氏ノ所説ノ大要ヲ譯載シ以テ讀者ノ參考ニ供スヘシ
「フォースタン、エリ」氏原刑法論曰ク實ヲ變スルコト害スルノ意アルコト害ノ生シ得ヘキコトノ三條件ハ罪ヲ構造ス

官ノ文書ヲ偽造スル罪

ルニ必要ニシテ其成立ニ関クヘカラサルモノナリ左ニ
逐次之ヲ開説シ以テ此罪ニ付キ生スル數多ノ難問ヲ融
解スヘシ

第一 實ヲ變スルコト

文書中ノ實ヲ變スルコトハ詐偽罪ノ成立ニ関クヘカラ
サル一條件ナリ此條件タル明々白々タルモノナレハ別
ニ開説ヲ要セサルヘシ是レ何人ト雖モ實ヲ變セサルノ
詐偽アルヲ信セサレハナリ抑害ヲ加フルノ意ハ如何ナ
ル害ヲ人ニ加ヘントスルニ在ルモ詐偽タル外形ノ所爲
ヲ伴ハサルトキハ是レ唯惡意タルニ過キス刑法ノ之ニ
干涉スルヲ得サルナリ

此原則ニ依リ大審院ニ於テハ文字ヲ書スル能ハス又ハ

文字ヲ知ラサル者ノ手ヲ執テ書セシメタルノ所爲ハ其
文書タル本人ノ意思ヲ示シタルモノナルコトノ確實ナ
ルニ於テハ詐偽ノ罪ヲ形成セスト判決セリ千八百三十
年六月三十
日附是レ手ヲ執リタル者ハ本人ノ眞實ナル意思ヲ寫出
シタルニ止マリ之ニ代フルニ自己ノ意思ヲ以テシタル
モノニ非ス故ニ實ヲ變シタリトイフヲ得ス從テ詐偽ナ
ルモノアラサレハナリ之ニ反シ若シ人不實ナル事ヲ陳
ヘ他人ヲシテ之ヲ記載セシメタルトキハ自ラ之ニ署名
セスト雖モ詐偽ノ罪ナリトス蓋シ法律ノ罰スル所ハ文
書中實ヲ變スルコト是レナリ千八百四十二年九月十七
日附大審院判決ヲ看ルヘシ

又此原則ニ依リ昔在ノ法學者ト同ク文書中ノ條件ヲ塗

抹セリト雖モ猶ホ解讀シ得ヘキトキ即チ其條件依然其
 跡ヲ存スルトキハ之ヲ以テ詐僞罪ヲ組成スルニ充分ナ
 ル元素ト爲スヘカラスト決セサルヘカラスト是レ未ダ其
 實ヲ變セサレハナリ罪ヲ犯スノ意ハ豫備ヲ試ミタルニ
 因テ外形ニ顯レヌリト雖モ其事成ラサルモノナレハ詐
 僞ノ訴ヲ爲スヘカラサルナリ然レトモ文書ノ一條件ヲ
 削リ又ハ破壊シテ其形跡ヲ消滅セシメタルトキハ充分
 ニ訴ヲ爲スチ得ヘシ何トナレハ此削除タル文書ノ實ヲ
 變シタルモノナレハナリ然リ而シテ其條件ニシテ文書
 ニ關係ナク且之ヲ削ルモ害ヲ生セサルトキハ格別ナリ
 トス

實ヲ變スルコトハ必スシモ皆チ詐僞罪ノ元素ト爲ルモ

ノニ非ス詐僞ノ語ハ其意義頗ル廣キカ故ニ凡百ノ僞言
 ハ悉ク之ヲ其中ニ包含スヘシ然レトモ此等廣泛ノ詐僞
 中ニ就テ法律ノ罰責スヘキ特別ノモノヲ區別セサルヘ
 カラス凡ソ僞言ハ之ヲ文字ニ描寫スト雖モ仍ホ未ダ懲
 罰ヲ價スルノ程度ニ達スルモノニ非サルコトハ世人ノ
 知了スル所ナリ單純ナル僞言ト實ヲ變スルコトハノ間
 ニハ大ニ徑庭ノ見ルヘキモノアリ今左ニ之ヲ辨セシ
 刑法ニ於テハ詐僞罪ノ解釋ヲ與ヘス總テ詐僞者ヲ罰ス
 ルト雖モ而モ法律上罰スヘキ詐僞ノ種類及ヒ其性質ヲ
 區定セリ故ニ人法律ニ據テ下ノ二則ヲ定ムルヲ得ヘシ
 其第一則ハ實ヲ變スルコトハ法律ニ豫見シタル場合ニ
 非サレハ罪ト爲ルヘキ詐僞ノ元素ト爲ラサルコトニシ

テ第二則ハ法律ニ豫見シタル場合ト雖モ之ニ因リ害ヲ被ムルヘキ人ニ知ラシメスシテ爲シタルヲ必要トスルコトナリ左ニ此二則ヲ開説スヘシ

第一則ハ一點ノ疑ナシ第四百四十五條及ヒ第四百十七條ニ明示シタル方法ハ制限ヲ設ケタルモノニシテ之ヲ他ニ及ホスヲ得ス故ニ該條ニ明示シタル方法ニ依ラサルモノハ實ヲ變シタリト雖モ之ヲ罰スルヲ得サルナリ茲ニ例證ヲ舉ケテ以テ明カニ之ヲ辨セン

被告人審問ノ際其訴ヲ免カレンカ爲メ偽言ヲ陳ヘ又ハ偽名ヲ書シタリト雖モ之ヲ罰スヘカラス大審院ニ於テ此ノ如ク判決シタルノ理由ハ法律ハ被告人ヲシテ自己ニ不利益ナル事ヲ言ハシムルヲ得ス訴ヲ免カレンカ爲

メノ偽言ハ其辯護ノ範圍内ニ在リトイフニ在リ千八百八十四年四月二十七年九月十日同月九日附大審院判決又偽言ハ其眞實ナルコトヲ證スヘキ文書ニ顯ハル、ニ非サレハ法律上之ヲ罰セス被告人訊問調書ノ如キハ被告人ノ答辯々護ヲ證スルニ止マリ其答辯々護ノ眞實ナル旨ヲ證スルモノニ非サルナリ

裁判例ニ於テ被告人其知ル所ノ人ノ氏名ヲ申立テタルト想像ノ氏名ヲ申立テタルト區別シ人ノ氏名ヲ申立テタルトキハ之ヲ罰スヘシトセリ其理由トスル所ハ被告人辯護權ノ範圍ハ極メテ廣シト雖モ之カ爲メニ罪ト爲ルヘキ方法ヲ行フヘカラス唯裁判官ノ眼ヲ蔽ハントスルニ過キサルトキハ之ヲ罰セサルモ人ノ氏名ヲ申立

テ其人ニ害ヲ生スヘキトキハ之ヲ罰セサルヘカラスト
 イフニ在リ七月八日及十五年四月十二日千八百五十七年
 判院又法官ヲ欺カンカ爲メ請願書又ハ訴訟書類ニ偽言
 ナ載セタルトキモ亦右ト同ク決セサルヘカラスト又裁判
 言渡書ノ「カリテ」氏名記載所及ヒ要イフ點ニ對手人ノ權
 利ヲ滅殺センカ爲メ惡意ヲ以テ偽リヲ明示セシメタル
 者ヲ罰セサルモ亦右ノ規則ニ準據セルモノナリ其理由
 タル裁判言渡書ノ「カリテ」ニハ唯其聞取リタル事ヲ記
 載スルモノニシテ對手人ハ之ニ對シテ故障ヲ申立テ裁
 判官ヲシテ「カリテ」ヲ改メシムルヲ得ルモノナリトイ
 フニ在リ三月八日附大審院判決五月又送達書式ヲ具ヘタル使
 吏ノ呼出狀ノ冒頭ニ記載シアル證書寫ノ實ヲ變シタル

コトハ罰スヘキ詐僞ヲ形成セス二千八百三十九年九月
 刑法第四百四十七條ニ豫見シタル所ハ訴權又ハ權利ノ基
 礎ト爲ルヘキ文書ノ實ヲ變シタルノ所爲ナレハ本書又
 ハ公正ノ謄本ト異ナリテ執行スルヲ得サル寫ノ實ヲ變
 シタル場合ニ之ヲ適用スヘカラサレハナリ又法律上事
 ナ證スルノ任アル官吏ニ非サル者ノ面前ニ於テ爲シタ
 ル偽言ハ決テ之ヲ罰スヘカラスト千八百四十六年五月二
 日附大審院判決
 〔他ニ引例アリト雖モシタル外尚ホ〕
 又詐僞ヲ構造スル所ノ實ヲ變スルコト、詐欺取財ノ方
 法ト爲ルヘキ詐欺トノ區別ハ之ヲ畫定スルニ困ムコト
 アリ若シ犯人ノ行ヒタル所爲第四百四十六條及ヒ第四百
 十七條ニ定メタルモノナルトキハ詐僞ノ罪アリト雖モ

第三ノ人ニ害ヲ生スヘキモノニ非サルトキ又ハ文書ニ記載シアル事ノ眞實ヲ證スルモノナラサルトキハ唯第四百五條ニ定メタル偽言ナリトス例ヘハ資産ヲ偽リ虚偽ノ信用ヲ獲ンカ爲メ假定義務者ノ承諾ヲ得タル貸金證書ヲ差出シタル者ハ詐欺取財ノ爲メニ非サルヨリハ罰セラル、コトナシ是レ此證書ハ義務ヲ生セサルモノニシテ第四百四十七條ノ正面ニ當ラサレハナリ又權利者ヲ害センカ爲メ第三ノ人ニ權利者ノ差押ヘニ係ル物件ヲ讓與シタルノ偽證ヲ造リ之ヲ差出シタルモ其證書タル私印ノモノニシテ本人ノ署名シ其效アラサルトキハ詐欺ノ罪ニシテ唯民事上ノ詐欺アルノミ

大審院 官ノ名義ヲ以テスルト雖モ救助ヲ受ケンカ爲メ

千八百五十九年七月八日附

ニ文書ヲ造リタル者亦詐欺取財ナリトス何トナレハ此文書タル義務ヲ生スルモノニ非サレハナリ此者ハ第四百六十一條ニ於テ輕罪ノ刑ニ處スル所ノ救助ヲ受ケンカ爲メ保證狀ヲ偽造シタル者ニ準スヘキナリ

然レトモ義務ノ證據ト爲ルヘキ文字若クハ署名ヲ偽造シ詐欺取財ヲ爲シタルトキハ詐欺ノ罪アリトス大審院ニ於テハ第三ノ人ノ文字及ヒ署名ヲ偽造シ其者ヨリ發シタル未遂書簡ナリト思ハシメ之ニ因テ詐欺取財ヲ爲シタルトキハ詐欺ノ罪アリト判決シ以テ此區別ヲ定メタリ其理由タル若シ此書簡ヲシテ偽造ノモノダラサラシメサルトキハ其書簡ヲ發シタリトセラレタル者即チ借主ニ義務ヲ生シ得ヘキ證據ノ端緒ト爲ルモノナリト

イフニ在リ十七日附十六年九月二日大審院判決ニ於テハ未遂書簡義務ヲ生スヘカラサルモノナルトキ例ヘハ其書簡ヲ發シタル者ナリト思ハシメタル人ハ想像ノ人ナルトキト雖モ仍ホ之ヲ造リタルノ所爲ハ詐僞ヲ形成スルモノナリト判決セリ其理由ヨ曰ク第四百四十七條及ヒ第五百十條ニ依ルニ詐僞ノ罪ハ契約又ハ規則若クハ義務ヲ造出シタルトキノミニ成立スルモノニ非ス文字署名ヲ僞造變造シタルトキモ亦成立スルモノナリト千八百九十三年九月十日千八百八十七年八月二十日千八百八十五年八月十一日及ヒ千八百八十一年八月十八日附判決此判決タル恐クハ廣漠ニ失スヘシ抑詐僞ノ罪ハ文字ヲ僞造シタルノミニ成ラス尙ホ其詐僞タル文字ヲ僞造セラレタル者ニ害ヲ生シ得ヘキモノタラサルヘカラス若シ其者ニ義務ヲ生セサルモノナルトキハ之ヲ第三ノ人ニ對シテ用ヒタルハ即チ詐欺取財ノ方法ニシテ第四百五條ニ定メタル詐欺ノ術策中ニ入ルヘキナリ



詐僞罪ヲ構造スヘキ實ヲ變シタルコト、詐欺取財ノミヲ構造スヘキモノトノ區別ハ右ニ之ヲ盡了シタルカ故ニ是レヨリ詐僞ト「シミュレーション」^{變裝トトノ區別ヲ論ス}トトノ區別ヲ論スヘシ變裝トハ關係人ノ書カント欲スルコトヲ書キタルモ而モ其真意ヲ隱サシカ爲メ故ラニ其真意ヲ隱スコトナイフ雙方ノ承諾ニ成リ且第三ノ人ニ害ヲ生セサルトキハ之ヲ以テ詐僞罪ヲ構造スヘキ實ヲ變シタルコト、爲スヲ得ス然レトモ若シ第三ノ人ヲ害センカ爲メ變裝

ナ爲シタルトキハ如何羅馬法ニ於テハ是レ亦詐僞罪ヲ
 構造セスト爲シタリキ然レトモ法學者中第三ノ人ヲ害
 スヘキ變裝ハ詐僞ノ罪ヲ構造スト説ク者アリ「ジュース」氏
 此説ヲ主唱セリ然レトモ「ゴドフロリ」氏ノ辨セシ如ク此
 レ唯真正ナル日附ヲ變シ之ニ代フルニ僞リノ日附ヲ以
 テシタルトキニ限レルモノニシテ第三ノ人ヲ害スルト
 キハ必スシモ皆ナ之ヲ詐僞罪ナリトスルモノニ非サル
 ナリ之ニ反シ「ミューヤール、ド、ヴィーグラン」氏ハ變裝ト詐欺
 トヲ別異ニセリ曰ク此罪タル詐僞倒産ヲ爲スニ付キ往
 々犯ス所ノモノニシテ通常之ヲ變裝トイフ此罪タル其
 模樣如何ニ因リ且其額ノ多寡及ヒ之ニ因リ生スヘキ損
 害ノ程度ニ因リ多少重大ナルナラント雖モ而モ之ヲ文

書ノ實ヲ變スルニ成ル所ノ詐僞罪ト同ク嚴罰スルコト
 ナシ云々ト「デュムーラン」氏ハ一層明了ニ此區別ヲ畫定セ
 リ
 右羅馬法及ヒ法學者ノ認メタル規則ハ吾カ法律ニ於テ
 モ亦之カ反對ヲ定ムルコトナシ革命七年三月ノ法ニ於
 テハ税則ヲ犯スカ爲メ賣買契約ノ價ヲ變裝シタルノ所
 爲ハ民事ノ訴ヲ生スルニ止マルモノト爲シ以テ明カニ
 此規則ヲ適用セリ而シテ第四百四十五條第四百四十六條及
 ヒ第四百四十七條ニ於テハ暗ニ此規則ヲ認メタリ即チ詐
 僞ハ外文字署名ヲ僞造スルニ成リ内雙方合意ノ實ヲ變
 スルニ成ル然ルニ變裝ハ第一文字署名ハ真正ノモノナ
 リ第二變裝シタル合意ハ雙方ノ者ノ相結約シタルモノ

ナレハ之ヲ其中ニ入ルヘカヲサルナリ大審院ノ判決例
モ亦其意ヲ同フス

右ニ開説シタル所ノ區別ハ實ヲ變スルコトハ惡意ヲ以
テ之ヲ爲シタリト雖モ必スシモ皆ナ詐僞罪ノ性質ヲ有
スルモノニ非ス文字ヲ僞造變造セサルトキ其文書ハ義
務ヲ生セサルモノナルトキ又ハ其文書タル眞實ヲ證ス
ルモノニ非サルトキハ其罪惡ノ如何ヲ問ハス之ヲ詐僞
トセス或ハ輕罪ノ刑ヲ以テ之ヲ罰スヘシ或ハ全ク刑法
ニ觸レサルモノナルコトヲ明了ナラシムヘシ

第二ノ區別即チ變裝ノコトニ付テハ尙ホ少ク論セサル
ヘカヲサルモノアリ凡ソ刑法ニ於テハ所有權ニ對スル
ノ罪ヲ定ムル旨ニ犯スノ意ト因テ生スル害トニ因ルノ

ミナラス亦被害者ノ之ヲ防クノ難易ニ因ルモノナリ之
ヲ防ク難キヲ加フレハ其罪亦從テ重キヲ加フ例ヘハ盜
罪ノ如シ之ヲ防クノ難易ニ因リ或ハ之ヲ輕罪トシ或ハ
之ヲ重罪トスルノ類是レナリ詐僞罪ノ刑ハ被害者ノ不
注意ニ因テ生シタル場合ニ適用セズ法律ハ暴行ヲ爲シ
テ所有權ヲ侵シタル者及ヒ已ムヲ得ス委託シタル場合
ニ之ヲ侵シタル者ヲ嚴罰セサルヘカヲス被害者ニ防ク
ノ術ナキコトハ盜罪ニ在テハ加重ノ模様ニシテ詐僞罪
ニ在テハ組成ノ元素ナリ例ヘハ二人其契約ニ新ナル條
件ヲ加ヘンコトヲ約シ一人之ヲ誓スルニ當リ忽チ前意
ヲ翻シテ其意義ヲ變轉セリ今此所爲タル他ノ一人直チ
ニ之ヲ發覺セサルトキハ一ノ大ナル詐欺ナルコト敢テ

疑ヲ容レヌト雖モ其之ヲ知リ得ヘクシテ自己ノ輕忽妄
 信ノ爲メニ此罪ヲ招キタルトキハ之ヲ以テ詐僞ノ罪ナ
 リトスルヲ得ス之ニ反シ他ノ一人ノ知リ得ヘカラサル
 様竊ニ新條件ヲ加ヘタルトキハ則チ罰スヘキ詐僞ノ性
 質アリトス此區別タル大審院ニ於テ既ニ之ヲ認メタリ
 千八百九十五年五月三十一日及千八百
 百三十九年五月三十一日附判決
 右ノ區別タル第四百四十五條以下ニ暗ニ示スノミナラス
 亦背信ノ罪及ヒ署名アル白紙ヲ濫用スル罪ニ付キ明カ
 ニ之ヲ示セリ署名アル白紙ヲ濫用スルハ是レ條件ヲ變
 シ又ハ目的外ノ事件ヲ加フルモノニシテ其性質タル詐
 僞ナリト雖モ法律ニ於テハ之ヲ詐欺取財ノ一種ト爲シ
 第四百七條ニ於テ輕罪ノ刑ニ處スヘシト定メタリ又背

信罪ハ或ル場合ニ於テハ實ヲ變スルモノナリト雖モ仍
 ホ之ヲ詐僞罪トセス是レ法律ハ害ヲ被フルヘキ者ノ其
 事ヲ知リ得ルコトヲ以テ詐僞ノ性質ヲ變シ其罪惡ノ一
 分ヲ失フノ模様ト爲シタルヤ明カナリ加之被害者ハ其
 不注意ノ責ニ任セサルヘカラス又犯人ノ罪惡ハ大ニ輕
 カラサルヘカラサルナリ然レトモ署名アル白紙ヲ濫用
 シタルヲ以テ輕罪ト爲スハ其委託ヲ受ケタル者自ラ之
 ヲ濫用シタル場合ノミ若シ第三ノ人之ヲ濫用シタルト
 キハ則チ詐僞ノ罪アリトス此區別タル大審院ニ於テ之
 ヲ適用セリ茲ニ人アリ建白書ヲ他人ニ委託セリ然ルニ
 本文ト署名トノ間ニ餘白アルヲ以テ受託者之ヲ切取リ
 爲替手形ヲ造リタリ此所爲タル署名アル白紙ヲ濫用ス

ルノ罪ニ非ス偽リノ契約ヲ造出シタル真正ノ詐偽罪ナ
 リ何トナレハ白紙ヲ委託シタルニ非ス且被害者其署名
 ナ使用セラル、コトヲ豫見スルヲ得サレハナリ大審院
 ニ於テモ亦此ノ如ク判決セリ二千八百二十三年十月
 其氏名ヲ證シタル名刺ヲ他人ニ與ヘタリ然ルニ之ヲ受
 取リタル者其氏名ノ前ニ義務ノ證ヲ記載シ之ヲ行使シ
 タリ是レ亦詐偽ノ罪ナリト決スヘシ是レ署名アル白紙
 ナ委託シタルモノニ非サレハナリ七月八日附判決年
 自己ニ渡サレタルニ非サル白紙ノ委任狀ニ本人ノ意ニ
 反スル事件ヲ記入シ其利益ヲ害スルノ用ニ行使シタル
 者四千八百二十四年二月又ハ詐欺ノ手段ニ因リ得タル白
 紙ヲ濫用シタル者千八百二十四年六月二ハ無論詐偽ノ

罪アリ其輕罪タルニハ己レ署名アル白紙ヲ委託セラレ
 タルコトヲ必要ナリトス千八百九十九年一月二十五日及千八
 千八百五十五年九月
 背信罪ニ付テモ亦同一ノ區別アリ例ヘハ社員其會社ノ
 存立スル間ニ自己ノ負債ヲ消滅セシメ若クハ會社ノ負
 債ヲ増加スル爲メ社印ヲ濫用シタルモ詐偽ノ罪ヲ犯シ
 タルモノニ非ス是レ此罪ヲ犯シタルハ會社ノ委任ヲ濫
 用シタルモノナレハナリ千八百三十六年三月二十六日及千
 八百三十八年三月二十六日附大
 審院實ニ此所爲タル詐欺ナリ詐偽ニ非サルナリ詐偽罪
 ナ構造スルニハ偽リノ義務ヲ造出スヲ必要トス然ルニ
 本件ニ付テハ此ノ如キコトナシ何トナレハ證書ヲ造リ
 之ニ署名シタルハ會社自カラ其代理人ニ由テ爲シタル

手紙
 西
 〇

コトニシテ代理人信用ニ背キタリト雖モ而モ正當ナル代理人ナレハ其義務タル真正ノモノナレハナリ然レトモ會社解散後社員其會社ノ印ヲ用ヒテ手形ヲ造リタルトキハ然ラズ此場合ニ於テハ委任既ニ解ケ從テ偽リノ義務ヲ造出シタルモノナレハ乃チ詐偽ノ罪アリトス又租稅事件ニ付キ虛偽ノ申立ヲ爲シタリト雖モ其申立タル官ノ帳簿ヲ變スルノ效ナキトキハ稅則ニ於テ之ヲ金刑ニ處スルノミ詐偽ヲ以テ論セス此區別タル殊ニ登記ノ事件ニ適用セラレタルモノニシテ其理由トスル所ハ官ニ於テハ充分ニ事ノ眞偽ヲ監査スルノ權アリテ納稅者ノ申立ニ信ヲ措カストイフニ在リ然レトモ證據書類ヲ添ヘ免除ノ證券ヲ得ンカ爲メ又ハ其證券ニ證スル

所ノ事實ヲ變セシカ爲メ虛偽ノ申立ヲ爲シタルトキハ詐偽ノ罪アリトス何トナレハ此場合ニ於テハ申立ノ事實ヲ變シタルニ非スシテ事實ヲ證スヘキ文書ノ實ヲ變シタルモノナレハナリ
千八百五十四年四月十九日附大

審判院

又虛偽ノ計算不實ノ數字ハ詐偽ノ中ニ入ルヘカラス其理由ハ計算ヲ受クル者ハ其數ヲ監査スヘキモノニシテ之ニ記載シアル事項ハ總テ其知ル所ノモノナレハ偽言ノ性質ヲ有スルモ詐偽ニ非ストスルニ在リ詐偽ノ罪ハ數字ヲ變スルニ付キ其本書ヲ偽造シタルニ非サレハ成立セズ
千八百五十九年七月七日附大審判院決之ヲ要スルニ
 實ヲ變スルコトハ被害者ニ知ラシメヌシテ之ヲ犯シ文

文書偽造ノ一般ノ性質

字ノ偽造文書ノ變造ニ因テ外形ニ顯ハレ偽リノ事件或ハ約束ヲ造出シタルトキニ非サレハ詐僞ノ罪ヲ成サス他ハ僞言ノ性質ヲ有シ其輕重ニ從ヒ或ハ輕罪ノ刑ニ處シ或ハ刑罰ヲ免カル、モノナリ

第二 惡意

詐僞罪ヲ構造スルニ必要ナル第二ノ條件ハ則チ惡意ナリ凡ソ惡意ニ數等アリ或ル場合ニ於テハ法禁ヲ知リ之ヲ犯スノ意アルニ因テ成リ他ノ場合ニ於テハ犯人事ノ不真ナルヲ知リ之ヲ犯サントスルノ意アルノミニテハ未タ充分ナラス尙ホ其意思特定ノ目的アルヲ要ス詐僞罪ノ如キ即チ是レナリ意アリテ故ヲニ實ヲ變シタルモ猶

ホ未タ罪ナシ惡意即チ他人ヲ害スルノ意思アルヲ必要トス此原則タル詐僞ニ固有ノモノナリトス是レ曩ニ開說セシ如ク文書ヲ偽造變造スルコトハ一ノ豫備ノ所爲ニシテ犯人ノ目的ニ因リ始メテ罪ト爲ルモノナレハナリ此規則タル各國ニ於テ是認スル所ナリ余輩嘗テ言ヘリ詐僞罪ノ成立ニ必要ナル惡意トハ他人ヲ害スルノ意ナリト然レトモ此語タル其義ヲ狹隘ナラシムヘカラス人畜ニ對シテ他人ヲ害スルノミナラス亦其名譽ニ對シテ之ヲ害スルヲ得ヘク又私益ヲ害スルノミナラス亦社會公益ヲ害スルヲ得ヘシ後ヲ將ニ此點ヲ開說スヘシ

第一ニ實ヲ變スルコトハ故意ニ出ツルト雖モ害ヲ加フ

ルノ意ナキトキハ詐偽トシテ罰スヘカラス此點ハ數多
ノ大審院判決ヲ以テ之ヲ定メタリ

建白書ニ偽リノ署名ヲ爲シタリ審問ニ因リ被告人ハ建
白者ノ爲メ其承諾ヲ得テ署名シ二箇ノ署名ハ其人ニ知
ラシメスシテ之ヲ爲シタリト雖モ害ヲ加フルノ意ナキ
コトヲ證セリ大審院ニ於テハ詐偽ノ罪ハ他人ニ害ヲ加
フルノ意思ナキトキハ成立セスト判決セリ 千八百六十六年
三月十八日

附判

醫師診斷書ニ其同業人ノ名ヲ署シタリ然レトモ其同業
人ハ其ニ疾病ヲ診斷シタルモノニシテ其診斷書ヲ是認
シタリ故ニ此所爲タル毫モ害ヲ加フルノ意ナク從テ詐
偽ヲ形成セサルナリ大審院ニ於テモ亦此ノ如ク判決セ

リ 革命七年八月
十七日附判決

受贈者ニ知ラシメスシテ贈與ノ證書ヲ偽造シタリト雖
モ本人偽リノ署名ヲ爲シテ之ヲ行使スルノ意ナキトキ
亦同シ 千八百七十八年八月十日大審院判決 實ニ此偽造ノ所爲タル毫モ害
ヲ加フルノ意ナキモノナレハ其罪ナシ唯法律ノ關與ス
ヘカラスル無害ノ想像タルニ過キサリナリ
公證人ノ筆生證書中ニ雙方ノ者ニ讀ミ聞カセタリトノ
語ヲ記載スルヲ遺忘シ後チ之ヲ記入シタルノ所爲ハ惡
意ナク唯公證人ノ譴責ヲ免カレンカ爲メノミニ出テマ
ルトキ亦同シ 千八百八十八年五月十二日大審院判決
是ヨリ害ヲ加フル意思ノ種類ヲ論スヘシ
詐偽ハ概シテ盜ヲ爲スノ方法ナリ故ニ通常其目的トス

文書偽造ノ一般ノ性質

ル所ハ他人ノ財産ヲ害スルニ在リ是レ刑法第百六十四條ニ詐僞ニ因リ其正犯從犯ニ生スヘキ不正ノ利得ノ四分ノ一ニ至ルマテノ語ヲ記入シタル所以ナリ然レトモ該條ヲ目シテ制限ヲ付シタルモノトシ犯人ニ金錢上ノ利得ヲ生スヘキモノニ非サレハ詐僞ノ罪ナシト斷定スヘキ乎余輩ハ之ヲ是信スル能ハサルナリ抑第百六十四條ハ「ベンザム」氏ノ說ヲ假用シタル「タルシエ」氏ノ意見ニ從ヒ設ケタルモノニシテ慾情ニ原因スル罪ハ其慾情ヲ攻撃スヘキ刑ヲ以テ罰セサルヘカラストノ趣意ニ基クモノナリ若シ法律ハ慾情ニ原因スルノ詐僞ニ限ラサルモノトセハ他ノ原因即チ復讐ノ如キ又ハ公務ヲ免カレント欲スル念ノ如キ原因ニ基ク詐僞モ亦之ヲ不問ニ付

スルヲ得ス今此明了ナラサル箇條ヲ以テ此ノ如キ制限ヲ設ケタルモノトスルヲ得サルナリ該條ノ不明ナルハ最モ著キ詐僞罪ヲ顧ミテ之ヲ編成シタルニ因ル唯論理上第百六十四條及ヒ其罰金ハ慾情ニ原因スル詐僞ノニ適用スヘシト爲スヲ得ルノミ若シ然ラスシテ反對ノ說ニ從フトキハ慾情ニ原因セサル詐僞ハ悉ク之ヲ不問ニ付セサルヘカラスト是レ豈法律ノ精神ナランヤ決テ取ルニ足ラサルナリ今毒殺ノ用ニ供スル毒藥ヲ買ハンカ爲メ醫師ノ免許狀ヲ僞造シタル者ハ害ヲ加フルノ意思アリ即チ犯人ニ復讐疾惡情慾ヲ遂クルノ利益ヲ生スルモノナリ然ルニ慾情ニ限レルモノト爲スハ詐僞中ノ一種ヲ取り法律ニ定メタル所其樊牆廣大ナルニモ拘ハラ

ス漫ニ之カ區別ヲ設クルモノトイフヘシ故ニ余輩ハ大
 審院ト共ニ詐僞ノ罪ハ管ニ財産ヲ害スルノ意アルトキ
 ノミナラス他人ノ名譽ヲ害スルノ意アルトキモ亦成立
 スルモノナリトス大審院判文ニ曰ク第四百四十五條及ヒ
 第五百十條ハ或ハ文字署名ヲ偽造變造シ惡意ヲ以テ爲
 シタル私文書偽造ノ罪ヲ以テ施體又ハ加辱ノ刑ニ處ス
 ヘキ重罪ノ中ニ列シタリ而シテ公益又ハ私益ヲ害スル
 ノ目的ヲ以テ爲シタル詐僞ハ惡意ヲ以テ爲シタルモノ
 トス又私益トハ管ニ財産ノミナイフモノニ非ス名譽モ
 亦然リ千八百三十二年七月
 月千二百六日附判決ト
 故ニ詐僞ハ唯誣告スルノ目的ヲ以テスルモ仍ホ之ヲ罰
 セサルヘカラス然レトモ詐僞ノ元素ト誣告誹毀ノ元素

トハ慎テ之ヲ區別セサルヘカラス唯不實ノ惡事ヲ申立
 テ若クハ之ヲ公行スルハ詐僞ニ非ス法律ハ其結果ノ如
 何ヲ問ハス唯之ヲ輕罪ノ刑ニ處ス然リト雖モ若シ詐僞
 ヲ以テ誣告ヲ助ケタルトキ即チ保證狀其他ノ書類ヲ偽
 造シ人ニ惡事ヲ歸與セシメタルトキハ從タル所爲却テ
 主タル罪ト爲リ之ニ詐僞ノ刑ヲ適用スヘキナリ例ヘハ
 他人ノ名譽ヲ害センカ爲メ僞リノ書翰ヲ公行シタルト
 キハ詐僞ノ罪アリトス千八百三十三年十一月
 日千八百三十二年八月三
 日附大審院判決又官吏ヲシ
 テ辭職セシムルノ目的ヲ以テ建白書ニ僞リノ署名ヲ爲
 シタルトキ千八百三十二年八月三
 日附大審院判決不實ノ事件ヲ他人ニ歸與
 セシメンカ爲メ未遂書簡ニ僞リノ署名ヲ爲シタルトキ
千八百五十二年十一月
 十八日附大審院判決女子ニ其名譽ニ關スル事ヲ歸與

文書偽造ノ一般ノ性質

大文書ヲ作り之ニ偽リノ署名ヲ爲シタルトキ
附大審院判決ハ詐僞ノ罪アリトス
五千八百九

又害ヲ加フルノ意思ト詐僞ニ因リ犯人ニ生スヘキ利益
トハ特立シテ必スシモ並存スルヲ必要トセス縦ヒ其利
益ナシト雖モ而モ充分ニ害ヲ加ルノ意思アルコトアリ
大審院ノ判決ニ曰ク詐僞ノ罪ニハ自己ヲ利スルノ意
ルヲ必要トセス他人ヲ害スルノ意アルヲ以テ充分ナリ
トス月千六百九十九年四月四日故ニ其罪ニ關係セサル第三ノ人
爲メ犯シタルトキ又ハ他ニ見ルヘキ利益ナク唯惡心ニ
因リ犯シタルトキト雖モ果テ實ヲ變シ害ヲ加フルノ意
ニ出テ其害生シ得ヘキモノナルトキハ詐僞ノ罪アリト
ス

又害ヲ加フルノ意ハ管ニ私益ニ關スルトキノミナラス
公益ニ關スルトキ亦詐僞罪ノ元素ナリ故ニ詐僞ニ關ス
ル刑法ノ規則ハ兵卒ヲシテ徵募ヲ免カレシメ又ハ備警
兵ノ搜索ヲ免カレシムル爲メノ文書偽造ニモ亦之ヲ適
用スヘキヤ明カナリ又人ヲシテ社會ノ秩序ヲ維持セン
カ爲メ設ケタル法網ヲ免カレシメ以テ其義務ヲ免カレ
シムルカ爲メノ詐僞ハ他ノ國民ヲシテ此義務ヲ行ハシ
ムルノ結果ヲ生シ從テ他人ヲ害スルモノナリ年千八百二
一十四日千八百十五年八月三日千八百二十四年八月
及ヒ千八百五十五年九月十九日附大審院判決又國民
ヲシテ其有セサル權利ヲ有セシムルカ爲メノ詐僞ハ全
社會ヲ害スルモノナリ

此原則タル官吏其職務ヲ行フニ當リ犯シタル詐僞ニ就

テ少ク困難ヲ見ルヘシ詐偽ハ官吏ノ犯シタルト常人ノ
 犯シタルトヲ問ハス害ヲ加フルノ意ナキトキハ決テ成
 立セサルナリ然レトモ官吏ニ就キ此意思ヲ形成スヘキ
 惡意ノ種類ヲ定メ其意思ノ外ニ顯ハル、種々ノ元素ヲ
 定ムルコト困難ナリ大審院ニ於テハ官吏文書中必要ナ
 ラサル模様ヲ變シ或ハ緊要ナル事實ヲ變シタルモ其惡
 意ナキトキハ罰スヘキ所爲ニ非スト爲スヲ以テ原則ト
 シ認メタリ公證人唯登記稅ヲ拂フノ期ヲ遷延センカ爲
 メ證書ニ虛偽ノ日附ヲ記入シタルトキ華命八年九月二
 十日附大審院
 判決公證人證書ニ其實本人ノ住所ニ於テ之ヲ受取リタル
 ナ其局ニ於テ受取リタリト詐偽ノ附記ヲ爲シタルトキ
千八百六十二年二月二
 十九日附大審院判決又其不在中筆生ノ目錄ヲ造リ又ハ

證書ヲ受取リタルニ之ヲ自ラ造リ又ハ自ラ受取リタリ
 ト證明シタルトキ千八百三十二年二月十
 八日附大審院判決ハ罪ニ闕クヘカ
 ラサル惡意ナク唯外形上實ヲ變シタルノミナリト判決
 セリ
 又同一ノ規則ニ基キ後日賣買ノ日附及ヒ實價ヨリ低キ
 價ヲ記載シタル所爲ハ詐偽ノ罪ヲ組成セスト判決セリ
千八百三十九年五月
 三十日附判決然レトモ動産讓渡事件ニ付テハ之レ
 ト同一轍ニ歸セシムルハ少シク爲シ難キカ如シ千八百
 四十八年
 七月八日附
 大審院判決故ニ官吏ハ關係人ヲ害スルノ意ナク又ハ
 詭欺ヲ施スノ意ナキトキハ懲戒例ニ依リ處分セラレ、
 ハ格別刑罰ヲ受クヘカラサルナリ
 然レトモ官吏其職務ヲ行フニ當リ害ヲ生スルノ意ナシ

ト雖モ重大ナル失錯ニ因リ詐偽ヲ爲シ而シテ其他人ニ
 害ヲ生シ得ヘキトキハ之ヲ罰スヘキ乎其失錯ヲ以テ害
 ナ加フルノ意ト見做シ之ヲ以テ罪ヲ構造セシムヘキ乎
 大審院ノ判決ハ之ヲ然諾セリ一ハ使吏筆生ヲシテ送達
 ナ爲セシメ其書類ニ自ラ送達ヲ爲シタリト記載シ以テ
 其過失ヲ蔽ハントシタル事件ニシテ二千八百十年六月一
 ハ公證人其管轄區畫外ニ到リ受取リタル證書ヲ其局ニ
 於テ受取リタリト偽テ明示シタル事件ナリ八月十九日
 三千八百九十九年七月十六日附判決八百 此點ニ付テハ大審院ノ
 判決區々一定セスト雖モ右ノ判決ノ如キハ怠慢ト惡意
 ト又惡意ト失職トチ混淆シタルモノナリ抑詐偽ノ罪ハ
 外詐偽ノ實アリテ內害ヲ加フルノ意思ナカルヘカラス

今公證人等其職務ヲ忘却シ重大ナル失錯ヲ爲シタリト
 雖モ毫モ害ヲ加フルノ意ナキ以上ハ之ヲ罰スルヲ得ス
 此ノ如キ者ハ其職ヲ剝キ賠償ヲ爲サシムルニ止ムヘキ
 ナリ
 之ヲ要スルニ罪ノ辨別及ヒ罪ヲ犯スノ意思ハ詐偽ノ罪
 ナ構造スルニ充分ナラス害ヲ加フルノ意思ヲ以テ其成
 立ニ闕クヘカラサル一元素ト爲ス然レトモ此意思タル
 一定ナラス第三ノ人ノ財産ヲ害セントスルトキ其名譽
 ナ攻撃シ誣告ノ用ニ供スルトキ社會ノ安寧ヲ維持スル
 ニ必要ナル保證ヲ剝奪シ又ハ社會人民ノ負フヘキ公務
 ナ免カレシメ若クハ社會ノ附與スル權利ヲ侵害スルニ
 因リ一般ノ利益ヲ害セントスルトキハ害ヲ加フヘキノ

意思アリトス而シテ害ヲ加フルノ意思ハ其害ノ多少ニ
因ルヘカラズ其害如何ニ輕微ナルモ法律上ヨリ觀ルト
キハ決テ罪ノ性質ヲ變スルモノニ非ス然レトモ若シ其
詐僞他ノ思想ニ基キ害ヲ加フルノ意ナキトキハ唯僞言
ニ過キサルナリ

第三 損害

詐僞罪ヲ構造スルニ必要ナル第三ノ條件ハ他人ニ或ル
害ヲ生シ得ヘキコト是レナリ此原則タル羅馬法ニ定メ
タルモノニシテ後世一般ニ之ヲ是認シ敢テ指頭ノ非難
ヲ試ミルモノナシ實ニ惡意ヲ以テ實ヲ變シタルノ所爲
コシテ毫モ其効ヲ生セス權利又ハ訴權ノ基礎ト爲ルヘ
カラサルトキハ唯是レ犯罪ノ思想ヲ顯ハスノミ其犯サ

ント欲スル罪未ダ生セサルモノナリ是レ法律ハ社會ヲ
害スルモノニ非サレハ之ヲ罪トセス害ヲ加フルノ意思
外形ノ所爲ヲ伴フニ非サレハ之ヲ罰セサレハナリ毫モ
害ヲ生スヘカラサル有形ノ詐僞ハ不良ノ目的ニ因リ之
ヲ爲シタルトキハ其惡事タルコト疑ヲ容レスト雖モ社
會ハ己レニ危害ヲ加フヘキ所爲ニ非サレハ之ヲ罰セサ
ルカ故ニ社會ヨリ之ヲ觀ルトキハ全ク同一ナリトス
然レトモ前既ニ意思ノ點ニ付キ開說シタルカ如ク其害
タル有形無形ヲ問ハサルナリ余輩ハ既ニ第三ノ人ノ名
譽ヲ害スヘキ文書僞造ハ詐僞ノ罪ヲ構造スルコトヲ知
レリ千八百九十五年十二月十三日附大審院判決此規則タル
僞造ノ文書公益ヲ害スル場合ニモ亦之ヲ適用セリ千八百

日十一年九月十九日附大審院判決

然リ而シテ詐偽ヲ罰スルニハ其現ニ害ヲ生シタルコト
 ナ必要トセス其害ヲ生シ得ヘキコトヲ以テ既ニ充分ナ
 リトス故ニ若シ實ヲ變シタルコトニシテ或ル害ノ原由
 ト爲ラス又ハ其原由ト爲ルヘカラサルトキハ詐偽ノ罪
 ナキモノトス此點タル判決例ニ徴シテ之ヲ識認セリ即
 チ引出人ノ裏書ニ因リ拂渡スヘキ手形ノ裏書ヲ偽造シ
 タル者ハ唯單純ナル企圖ニ過キスト雖モ引出人又ハ受
 取人ニ害ヲ生シ得ヘキカ故ニ詐偽ノ罪アリ三年四月八
 日判決大審院又動産讓渡證書ニ後日其價ヲ記入シタル者ハ
 收税ニ害ヲ加ラヘキカ故ニ詐偽ノ罪アリ千八百七十四年
 大審院又證書ノ瑕瑾アリテ取消シ得ヘキモノト雖モ詐

偽罪ノ成立ニハ現ニ害ヲ生シ若クハ必ス害ヲ生スルコ
 トヲ必要トセス唯或ハ害ヲ生シ得ヘキヲ以テ充分ナレ
 ハ仍ホ詐偽ノ罪アリ千八百五十七年十一月ト判決セリ
 右ノ原則ヲ適用スルニ方テハ縱ヒ偽造ニ非スト雖モ仍
 ホ害ヲ生シ得ヘカラサル證書ノ實ヲ變シタルトキト害
 ヲ生スヘキ證書ノ實ヲ變シ其證書タル必要ナル法式ヲ
 闕クカ若クハ署名人ノ無能力ナルニ因リ無効タルトキ
 トヲ區別セサルヘカラス

第一ノ場合ニ於テハ詐偽罪ニ必要ナル一元素ヲ闕クコ
 ト明了ニシテ半點ノ疑惑ヲ措ク所ナシ大審院ニ於テハ
 數多ノ判決例ヲ以テ此點ヲ認メタリ千八百七十八年四月二
 千八百四十二年九月二十二日千八百四十七年十一月二

文書偽造ノ一般ノ性質

十九年七月八日附判決五十

「ジュース」氏曰ク人其日記帳簿ヲ増減シタリト雖モ詐偽罪トシテ之ヲ罰スヘカラスト此説タル偽造者ニ毫モ利益ヲ生セサルトノ理由ニ基クモノナリ大審院ニ於テモ亦此説ヲ是認セリ月千八百二十七年附判決一

又證書自ラ害ヲ生スヘキモノ例ヘハ義務ノ證書賣買ノ證書金錢受取證書ノ類ト不時ニ害ヲ生スルコトアルヘキ通常ノ文書未遂書簡ノ類トチ區別セサルヘカラスト第一ノモノニ付テハ其有害ナルコトヲ證スルヲ必要トセズ是レ其證書ノ性質ヲ見テ自ラ明カナレハナリ故ニ公正ノ證書偽造ノ件ニ付キ陪審ニ於テ然リト答ヘタルトキハ其答辭中ニ第三ノ人ヲ害スヘキモノナリトノ申立

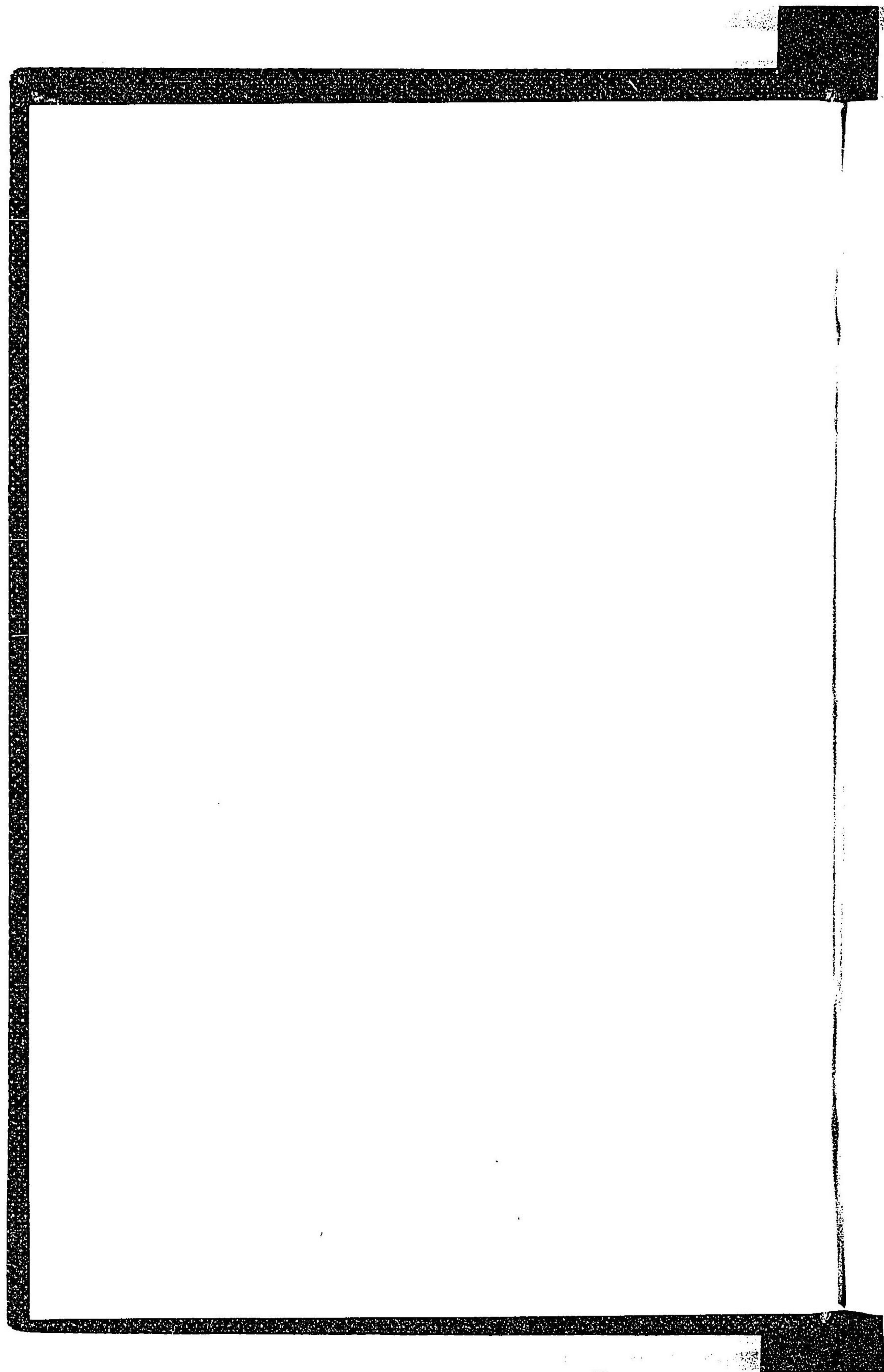
ヲ合蓄スルモノトス百六十五年九月十七日千八百六十八年九月十四日之ニ反シ不時ニ害ヲ生スルコトアルハ五年大審院判決

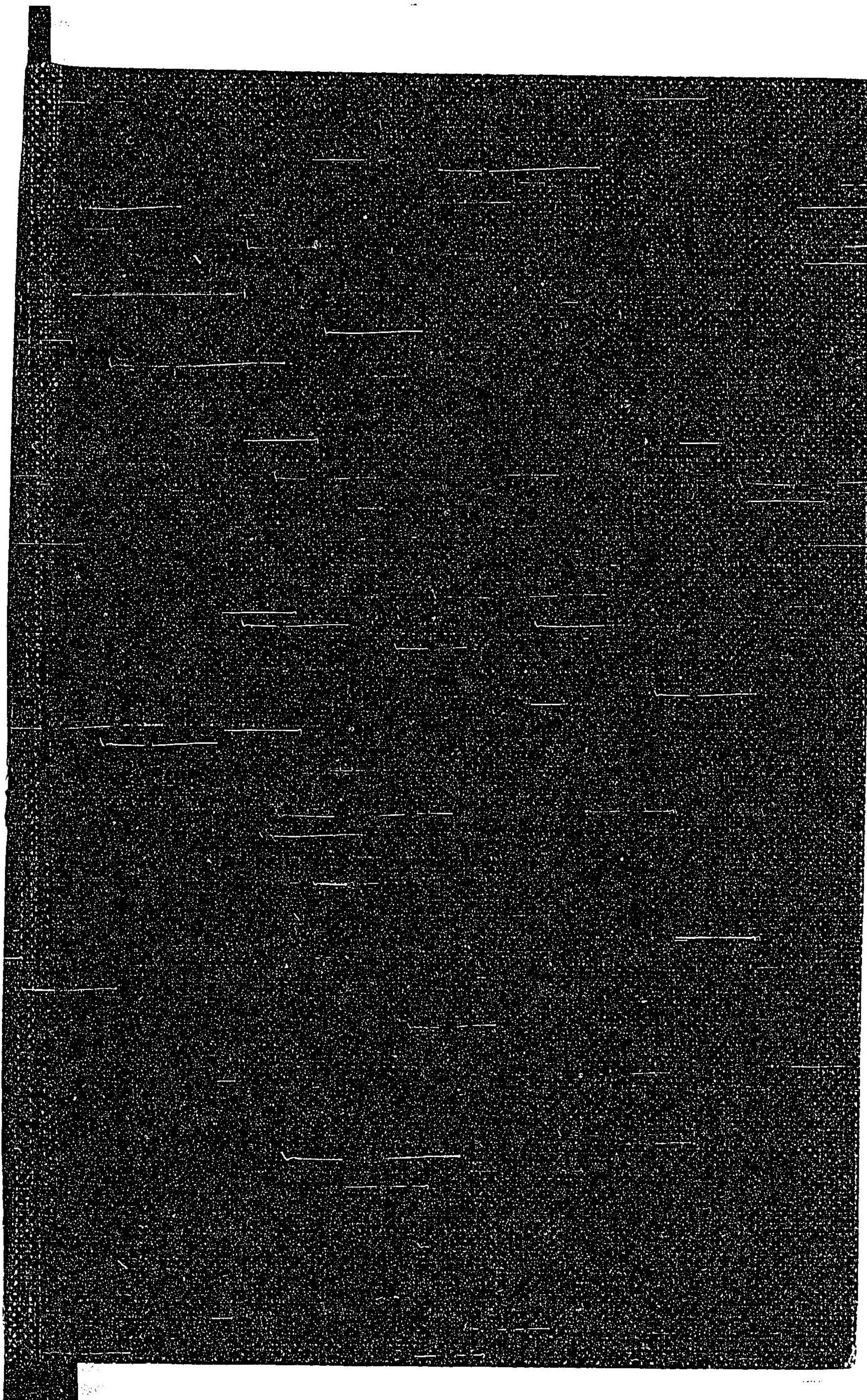
キ證書ニ付テハ特ニ其有害ナルコトヲ證セサルヘカラサルナリ月千八百七十八年十一月三日千八百七十八年十一月三日及千八百七十八年十一月三日

偽造シタル文書其法式ニ瑕瑾アルカ或ハ署名ヲ爲シタル人ノ無能力ナルニ因リ無効タルトキハ罪ノ成立ニ如何ナル影響ヲ及ホスヘキ乎此點ニ付テハ二箇ノ方法アリ往昔ニ在テハ必要ナル法式ヲ具ヘサル文書ヲ偽造シタルトキハ罰スヘカラサルヲ以テ原則ト爲シタリキ是レ此場合ニ於テハ其詐偽害ヲ生スヘカラストノ理ニ基由スルモノナリ故ニ其文書無効タリト雖モ或ル害ヲ生

10-515

スヘキ方法ニ用ヒタルトキハ則チ之ヲ罰スルモノトス
 此方法タル簡單ニシテ專ラ害ノ有無如何ヲ顧ミルモノ
 ナリ然レトモ大審院ハ之ヲ採用セス「メルラン」氏ハ他ノ
 原則ヲ定メ書類之ヲ造リタル後ノ法式ヲ闕キタルカ爲
 メ無効タルトキハ勿論亦初メヨリ無効タルトキト雖モ
 仍ホ之ヲ偽造シタル者ハ其刑ヲ免カルヘカラストセリ
 大審院ニ於テハ調書ニ法律上第三ノ人ニ對シ其効ヲ生
 スルニ必要ナリト定メタル相違ナキ旨ノ記載ヲ遺却シ
 タリト雖モ其調書ヲ偽造シタル者ハ之カ爲メ其刑ヲ免
 カル、ヲ得ス月千八百七十一年附判一又爲替手形ニ幼者ノ名ヲ
 偽署シタリト雖モ仍ホ詐僞ノ罪アリ二千八百一十二年八月
 ト判決シ又署名ナキ受取證ノ金額ヲ變易センカ爲メ其





29

41

